

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和3年9月30日
【計算期間】	第3期中（自 令和3年1月1日 至 令和3年6月30日）
【ファンド名】	レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン） トラストー償還時目標設定型ファンド1903 （Red Arc Global Investments (Cayman) Trust—Target Setting at Maturity Fund 1903）
【発行者名】	シティグループ・ファースト・インベストメント・ マネジメント・リミテッド （Citigroup First Investment Management Limited）
【代表者の役職氏名】	取締役 ソン・リ （Song Li, Director）
【本店の所在の場所】	香港、セントラル、ガーデン・ロード3、 チャンピオン・タワー50/F （50/F, Champion Tower, Three Garden Road, Central, Hong Kong）
【代理人の氏名又は名称】	弁護士 三 浦 健
【代理人の住所又は所在地】	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング 森・濱田松本法律事務所
【事務連絡者氏名】	弁護士 三 浦 健 同 飯 村 尚 久
【連絡場所】	東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング 森・濱田松本法律事務所
【電話番号】	03（6212）8316
【縦覧に供する場所】	該当事項なし。

1【ファンドの運用状況】

レッド・アーケ・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー償還時目標設定型ファンド 1903（以下、「ファンド」または「サブ・ファンド」といい、レッド・アーケ・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストを「トラスト」という。）の運用状況は、以下のとおりである。

（1）【投資状況】

資産別および地域別の投資状況

（2021年7月末日現在）

資産の種類	国・地域名	時価合計（米ドル）	投資比率（％）
債券 （ミディアム・ターム・ノート）	ルクセンブルグ	170,703,605.23	96.52
オプション	英国	5,512,086.55	3.12
現金・預金・その他の資産 （負債控除後）		642,291.75	0.36
合計（純資産価額）		176,857,983.53 （約19,364百万円）	100.00

（注1）投資比率とは、サブ・ファンドの純資産価額に対する当該資産の時価の比率をいう。以下、同じ。

（注2）米ドルおよび豪ドルの円換算は、便宜上、それぞれ2021年7月30日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝109.49円、1豪ドル＝80.86円）による。以下同じ。

（注3）サブ・ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設定されているが、米ドル建て受益証券は米ドル建て、および豪ドル建て受益証券は豪ドル建てのため、本書の金額表示は、別段の記載がない限りそれぞれ米ドルまたは豪ドルのいずれかをもって行う。

（注4）本書の中で金額および比率を表示する場合、四捨五入してある。従って、合計の数字が一致しない場合がある。また、円貨への換算は本書の中でそれに対応する数字につき所定の換算率で単純計算のうえ、必要な場合四捨五入してある。従って、本書中の同一情報につき異なった円貨表示がなされている場合もある。

（２）【運用実績】**①【純資産の推移】**

2021年７月末日までの１年間における各月末の純資産の推移は次のとおりである。

<米ドル建て受益証券>

	純資産価額		１口当たり純資産価格	
	米ドル	千円	米ドル	円
2020年８月末日	210,549,118.40	23,053,023	10.215	1,118
９月末日	205,245,075.59	22,472,283	10.217	1,119
10月末日	197,611,381.55	21,636,470	10.215	1,118
11月末日	189,605,881.16	20,759,948	10.272	1,125
12月末日	183,828,220.19	20,127,352	10.296	1,127
2021年１月末日	177,634,200.16	19,449,169	10.323	1,130
２月末日	170,007,140.99	18,614,082	10.319	1,130
３月末日	164,676,087.73	18,030,385	10.282	1,126
４月末日	159,388,194.98	17,451,413	10.345	1,133
５月末日	156,318,309.66	17,115,292	10.375	1,136
６月末日	149,498,154.52	16,368,553	10.349	1,133
７月末日	144,378,265.18	15,807,976	10.384	1,137

<豪ドル建て受益証券>

	純資産価額		１口当たり純資産価格	
	豪ドル	千円	豪ドル	円
2020年８月末日	63,290,804.12	5,117,694	10.237	828
９月末日	62,316,361.17	5,038,901	10.265	830
10月末日	61,241,676.14	4,952,002	10.298	833
11月末日	59,479,910.41	4,809,546	10.363	838
12月末日	56,364,791.10	4,557,657	10.378	839
2021年１月末日	53,677,952.89	4,340,399	10.412	842
２月末日	51,343,380.21	4,151,626	10.366	838
３月末日	48,564,118.03	3,926,895	10.367	838
４月末日	48,037,183.30	3,884,287	10.437	844
５月末日	46,833,699.73	3,786,973	10.446	845
６月末日	44,443,992.85	3,593,741	10.462	846
７月末日	43,945,058.93	3,553,397	10.547	853

②【分配の推移】

該当事項なし。

③【収益率の推移】

<米ドル建て受益証券>

期 間	収益率（注）
2020年8月1日～2021年7月末日	1.39%

<豪ドル建て受益証券>

期 間	収益率（注）
2020年8月1日～2021年7月末日	3.05%

（注）収益率（％）＝ $100 \times (a - b) / b$

a＝上記期間末現在の1口当たり純資産価格（上記期間の分配金（税引前）の合計額を加えた額）

b＝上記期間の直前の営業日の1口当たり純資産価格（分配前の額）

2【販売及び買戻しの実績】

2021年7月末日までの1年間における販売および買戻しの実績ならびに2021年7月末日現在の発行済口数は次のとおりである。

＜米ドル建て受益証券＞

販売口数	買戻口数	発行済口数
0.000	7,097,667.483	13,903,672.697
(0.000)	(7,097,667.483)	(13,903,672.697)

＜豪ドル建て受益証券＞

販売口数	買戻口数	発行済口数
0.000	2,188,630.200	4,166,577.791
(0.000)	(2,188,630.200)	(4,166,577.791)

（注）括弧内の数字は、本邦内における販売口数、買戻口数および発行済口数を表す。

3【ファンドの経理状況】

- a. ファンドの日本文の中間財務書類は、ルクセンブルグにおける諸法令および一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠して作成された原文の中間財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第76条第4項ただし書の規定の適用によるものである。
- b. ファンドの原文の中間財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）の監査を受けていない。
- c. ファンドの原文の中間財務書類は、米ドルまたは豪ドルで表示されている。日本文の中間財務書類には、主要な金額について、それぞれ2021年7月30日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝109.49円、1豪ドル＝80.86円）で換算された円換算額が併記されている。なお、千円未満の金額は四捨五入されている。円換算額は、四捨五入のため合計欄の数値が総額と一致しない場合がある。

（１）【資産及び負債の状況】

レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー

償還時目標設定型ファンド1903

純資産計算書

2021年6月30日現在

	注	米ドル	千円
資産			
投資有価証券－取得原価		164,634,500.26	18,025,831
投資有価証券－時価	2.2	176,373,627.03	19,311,148
オプション買い方－時価	10	5,479,026.51	599,899
銀行預金		1,233,282.88	135,032
資産合計		183,085,936.42	20,046,079
負債			
未払販売会社報酬	7	78,413.36	8,585
未払印刷・発行費用		21,052.25	2,305
未払弁護士報酬		20,081.12	2,199
未払管理会社報酬	5	16,275.97	1,782
未払専門家報酬		16,258.39	1,780
未払管理事務代行会社報酬	4	11,838.64	1,296
未払受託報酬	3	7,463.26	817
未払保管会社報酬	4	5,918.19	648
未払代行協会員報酬	6	1,480.61	162
負債合計		178,781.79	19,575
純資産合計		182,907,154.63	20,026,504
純資産価額			
豪ドル建て受益証券		44,443,992.85 豪ドル	3,593,741
米ドル建て受益証券		149,498,154.52 米ドル	16,368,553
発行済受益証券口数			
豪ドル建て受益証券		4,247,977.852 口	
米ドル建て受益証券		14,446,313.403 口	
受益証券1口当たり純資産価格			
豪ドル建て受益証券		10.462 豪ドル	846 円
米ドル建て受益証券		10.349 米ドル	1,133 円

添付の注記は、本財務書類の一部である。

レッド・アーケ・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー

償還時目標設定型ファンド1903

統計情報

発行済受益証券口数、期末：	豪ドル建て受益証券	米ドル建て受益証券
2019年12月31日	6,696,188.423 口	21,970,160.040 口
2020年12月31日	5,431,439.891 口	17,854,517.358 口
発行受益証券口数	－ 口	－ 口
買戻受益証券口数	(1,183,462.039)口	(3,408,203.955)口
2021年6月30日	4,247,977.852 口	14,446,313.403 口

純資産、期末：	豪ドル	千円	米ドル	千円
2019年12月31日	67,871,498.990	5,488,089	221,102,214.630	24,208,481
2020年12月31日	56,364,791.100	4,557,657	183,828,220.190	20,127,352
2021年6月30日	44,443,992.850	3,593,741	149,498,154.520	16,368,553

受益証券1口当たり

純資産価格：	豪ドル	円	米ドル	円
2019年12月31日	10.136	820	10.064	1,102
2020年12月31日	10.378	839	10.296	1,127
2021年6月30日	10.462	846	10.349	1,133

レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー

償還時目標設定型ファンド1903

財務書類に対する注記

2021年6月30日現在

注1. 活動

償還時目標設定型ファンド1903（以下「サブ・ファンド」という。）は、受託会社および管理会社の間で信託証書および2018年12月10日に締結された追補信託証書に基づき設定および設立されたトラストのサブ・ファンドである。サブ・ファンドは、2019年3月29日に当初の取得申込金を受け運用を開始した。

投資目的および方針

サブ・ファンドの投資目的は、受益証券の各クラスの投資者に対して、次に掲げるものに連動するリターンを提供することである。

- （a）満期日（*）において、受益証券の各クラスの発行価格の100パーセントの目標リターン（以下「目標償還水準」という。）を達成することを目指すポートフォリオ（受益証券の各クラスに関して、以下「安定運用部分」という。）
 - （b）受益証券の各クラスの本インデックスに対するエクスポージャーを提供するポートフォリオ（受益証券の各クラスに関して、以下「積極運用部分」という。）
- （*）：「満期日」とは、2023年12月29日または管理会社が決定するその他の日をいう。

受益証券の各クラスに関する目標償還水準を達成するために必要な最低金額が受益証券の各クラスの安定運用部分に配分され、残余部分が受益証券の各クラスの積極運用部分に配分されることを目的として、受益証券の各クラスに関する積極運用部分と安定運用部分との間の配分は、サブ・ファンドの設定日の後、短期間に確定された。

安定運用部分は、受益証券の各クラスに関連する本債券（すなわち、米ドル建て受益証券に関して米ドル建て債券および豪ドル建て受益証券に関して豪ドル建て債券であり、以下「安定運用部分取引」という。）に対するエクスポージャーを提供することにより、満期日において受益証券の各クラスの目標償還水準を達成することを目指している。アンサンブル・インベストメント・コーポレーション・エスエイ（以下「債券発行会社」という。）は満期日より前の本債券の想定される償還価格よりも割り引かれた価格により各本債券を発行した。各本債券は、満期日以前に満期の日を迎え、その満期の時に受益証券の当該クラスの目標償還水準を達成するように設計されている。

サブ・ファンドは、受益証券の各クラスの計算において、関連する安定運用部分取引の条件に基づいて毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる、個別の債券（米ドル建て債券に関して米ドル、豪ドル建て債券に関して豪ドル）の想定元本の年率約0.77パーセントの利息を受領し、かかる利息は、サブ・ファンドに関連する一定の運営の経費および費用を決済するために用いられる。

積極運用部分は、受益証券の各クラスの投資者に対して、ルックバック・コール・オプション取引を通じて、受益証券の関連するクラスに対して適用あるインデックス（すなわち、米ドル建て受益証券に関してグローバル・マルチアセット米ドル建てVT5 シリーズ2 指数（以下「米ドル建てインデックス」という。）および豪ドル建て受益証券に関してグローバル・マルチアセット豪ドル建てVT5 シリーズ2 指数（以下「豪ドル建てインデックス」という。）（以下個別にまたは総称して「本インデックス」という。）に対するエクスポージャーを提供する。

本インデックスによって適用される規則および方法は、次に掲げるものを除き、互いに実質的に同一である。すなわち、米ドル建てインデックスが米ドルで表示され、および豪ドル建てインデックスが豪ドルで表示されることから、適用あるクラス基準通貨と関連するクラス基準通貨以外の通貨建てのコアアセットおよ

ブリザーブアセットの構成銘柄との間のヘッジ取引は、米ドル建てインデックスと豪ドル建てインデックスでは、異なる運用となる。

注２．重要な会計方針

2.1 財務書類の表示

本財務書類は、ルクセンブルグにおいて投資ファンドに対して適用ある一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して継続企業の前提により作成されている。

2.2 投資有価証券の評価

管理事務代行会社は、払込日および各評価日に、適用あるクラス基準通貨建てで受益証券１口当たり純資産価格を算定し、これを公表する。

受益証券１口当たり純資産価格は、純資産価額を発行済受益証券の口数で除すことにより算定される。受益証券１口当たり純資産価格は、（0.0005を切り上げる通常の四捨五入の方法に従い）小数第３位または管理会社が受託会社と協議の上決定するその他の位まで端数処理される。純資産価額の算定において、管理事務代行会社は、以下の評価方針および手続に従う。

- （a）下記（b）および（c）の規定に従い、証券取引所、商品取引所、先物取引所または店頭市場において上場され、相場付けされ、取引され、または取り扱われている投資対象の価額に基づくすべての計算は、管理事務代行会社により、当該計算が行われる日、または評価日が当該投資対象の主要な取引所の営業日でない場合は、評価日に先立つ当該取引所の直近の営業日の当該取引所の営業終了時点における、当該取引所におけるその現地の規則および慣行に基づく最終取引価格または公式終値を参照して行われる。特定の投資対象について証券取引所、商品取引所、先物取引所または店頭市場が存在しない場合、当該投資対象の価額は、当該投資対象のマーケット・メイクを行う者、会社または機関（および当該マーケット・メーカーが複数存在する場合には、管理会社が受託会社と協議の上指定する特定のマーケット・メーカー）により相場付された当該投資対象の最新の入手可能な価格を参照して計算される。ただし、常に、管理会社が受託会社と協議の上その裁量において、他の取引所における価格またはブルームバーグもしくはインタラクティブ・データ・コーポレイションを含む独立したデータ提供事業者により提供された価格の方が、あらゆる状況において、当該投資対象に関してより公正な評価基準を提供するものと判断した場合、管理会社は、当該価格の採用を指示することができる。
- （b）上記（a）の規定に従い最終取引価格、公式終値およびその他の価格相場を入手することができない場合には、関連する投資対象の価額は、管理会社が（受託会社と協議の上）決定する方法で随時算定される。
- （c）上記（a）または（b）に従い投資対象の上場価格、相場価格、取引価格または市場取引価格を確認する目的において、管理事務代行会社は、機械化および／または電子化された価格配信システムにより提供された価格データおよび／または情報を利用し、それらに依拠することができ、かかるシステムにより提供された価格は、上記（a）または（b）の目的上、最終取引価格、公式終値または最新の入手可能な価格とみなされる。
- （d）短期金融市場の投資対象および銀行預金は、取得価額に経過利息を加えた額で評価される。
- （e）機能通貨以外の通貨建ての投資対象の価額（有価証券の価額であるか現金の価額であるかを問わない。）は管理事務代行会社が、関連するプレミアムまたはディスカウントおよび外国為替取引費用を考慮した上で当該状況において適切とみなす相場（公式のものであるかその他のものであるかにかかわらず。）で機能通貨に換算されるものとする。
- （f）オプション取引およびその他の店頭デリバティブ取引／商品は、予想キャッシュ・フローの正味現在価値に基づき評価される。当該オプション取引または他の店頭デリバティブ取引／商品の計算代理人が取引相手方も務める場合、当該兼任に起因して生じる利益相反を回避するため、管理会社またはそ

の受任者は、純資産価額の算定と同じかそれ以上の頻度で、当該評価に関する許容度チェックを実施する義務を負う。

（g）上記にかかわらず、管理会社は（受託会社と協議の上）、他の評価方法の方が関連する投資対象の公正価値をより反映すると判断した場合、他の評価方法の利用を許可することができる。

2.3 外貨換算

サブ・ファンドは米ドルで表示されている。受益証券のクラスは、米ドルおよび豪ドルで表示されている。

米ドル以外の通貨で表示されている資産および負債は、報告対象期間末時点の実勢為替相場で米ドルに換算される。外貨建取引は取引の日の実勢為替相場で米ドルに換算される。

2.4 スワップに係る受取利息

受取利息は、日次ベースで発生する。

注3．受託報酬

サブ・ファンドの関連当事者である受託会社は、サブ・ファンドの信託財産より、年間15,000米ドルの受託報酬を受領する権利を有する。当該報酬は、毎日計算されて計上され、四半期毎に後払いで支払われる。

注4．管理事務代行会社報酬および保管会社報酬

管理事務代行会社および保管会社は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.12パーセントの合算による管理事務代行会社報酬および保管会社報酬を受領する権利を有する。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。計算金額は、受益証券の関連するクラスに適用ある発行価格に対して、計算時点における受益証券の関連するクラスの発行済受益証券口数を乗じたものをいう。

注5．管理会社報酬

サブ・ファンドの関連当事者である管理会社は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.11パーセントの管理会社報酬を受領する権利を有する。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。

注6．代行協会員報酬

管理会社の関連当事者である代行協会員は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.01パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有する。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。

注7．販売会社報酬

管理会社の関連当事者である販売会社は、サブ・ファンドの信託財産より、受益証券の各クラスに関する計算金額の年率0.53パーセントを上限とする報酬を受領する権利を有する。当該報酬は、毎日計算されて計上され、毎月後払いで支払われる。

注8．担保契約

オプション取引から生じるカウンターパーティー・リスクのエクスポージャーを低減するため、受託会社は、サブ・ファンドの計算において、オプション・カウンターパーティーとの間で担保契約を締結している。同契約は、業界標準のISDA（国際スワップ・デリバティブ協会）マスター契約およびCSA（クレジット・サポート・アネックス）に基づく。同契約では、オプション・カウンターパーティーは、現金（米ドル）の担保を、サブ・ファンドの計算において、保管会社に交付している。担保プールは、各評価日において、時価評価および調整される。

2021年6月30日現在、必要担保金額は3,225,260.51米ドルであり、シティグループ・グローバル・マーケット・リミテッド（以下「CGML」という。）から受領され、およびサブ・ファンドの利益のため担保口座に預入れられた担保金額は3,260,000米ドルである。最低必要担保金額と現実の受領担保金額との差額は、最低譲渡金額である250,000米ドルを下回っている。

注9．税金

9.1 ケイマン諸島

ケイマン諸島において収益または利益に課される税金はなく、またファンドは、ケイマン諸島の総督からファンドの設立日である2008年10月21日からの50年間、現地の法人税、利益税および資本税がすべて免除となる保証を受けている。したがって、法人税等引当金は本財務書類上に計上されていない。

9.2 その他の国々

サブ・ファンドは、他の国々を源泉とする特定の収益に対し源泉徴収税またはその他の税金を課されることがある。

注10．オプション契約

積極運用部分を提供するルックバック・コールオプション取引は、受託会社の代理人を務める管理会社とCGMLの2当事者間で締結されている。

2021年6月30日現在、サブ・ファンドは以下のルックバック・コール・オプションを締結している。

10.1 豪ドル建て受益証券のオプション契約

枚数	インデックス・ オプション	通貨	満期日	取得価額	時価
21,664,687.04	CALL AUD Index S42	豪ドル	2023年12月18日	1,897,826.59	1,756,574.99

10.2 米ドル建て受益証券のオプション契約

枚数	インデックス・ オプション	通貨	満期日	取得価額	時価
108,199,437.49	CALL USD Index S42	米ドル	2023年12月18日	9,175,312.27	4,158,591.28
合計 (合算)		通貨		取得価額	時価
		米ドル		10,601,927.76	5,479,026.51

注11. 為替相場

米ドルに対して使用された2021年6月30日現在の為替相場は、以下のとおりである。

通貨	為替相場
豪ドル	1.3303

注12. 当期中の重要な事象

管理会社は、新型コロナ・ウイルス（COVID－19）の感染拡大の環境におけるサブ・ファンドの状況について評価を行った。金融市場は変動が大きく、世界の公衆衛生は困難な状況が続いているものの、管理会社は、予見可能な将来において、サブ・ファンドを償還する予定はないことを確認している。管理会社は、受益者の利益を最優先に、サブ・ファンドの状況を注意深く監視を続ける。

注13. 後発事象

本財務書類の作成にあたり、サブ・ファンドは、本財務書類に調整および／または開示が必要な後発事象はないと結論づけた。

（２）【投資有価証券明細表等】

レッド・アーク・グローバル・インベストメンツ（ケイマン）トラストー

償還時目標設定型ファンド1903

投資有価証券明細表

2021年6月30日現在

豪ドル建て受益証券

額面	銘柄	通貨	取得原価	時価	比率*
債券			豪ドル	豪ドル	%
42,479,775	ENSEMBLE INV CORP FIXED COUPON 27DEC23 AUD	豪ドル	40,415,257.94	42,568,982.53	95.78
債券合計			40,415,257.94	42,568,982.53	95.78
投資有価証券合計			40,415,257.94	42,568,982.53	95.78

米ドル建て受益証券

額面	銘柄	通貨	取得原価	時価	比率*
債券			米ドル	米ドル	%
143,956,617	ENSEMBLE INV CORP FIXED COUPON 27DEC23 USD	米ドル	134,253,941.03	144,374,091.19	96.57
債券合計			134,253,941.03	144,374,091.19	96.57
投資有価証券合計			134,253,941.03	144,374,091.19	96.57
投資有価証券合計（合算）		米ドル	164,634,500.26	176,373,627.03	96.43

この明細表は債券の投資情報のみを含んでおり、オプション契約の情報は含まれない。オプション契約の情報は財務書類の注記10に開示される。

（＊）百分率で表示された純資産合計に対する時価の比率。

投資有価証券の国別および業種別分類

合計（合算）

投資有価証券の国別および業種別分類

国名	業種	比率（％）＊
ルクセンブルグ		
	他に分類されないその他の金融サービス活動 （保険および年金を除く）	96.43
投資有価証券合計		96.43

この明細表は債券の投資情報のみを含んでおり、オプション契約の情報は含まれない。オプション契約の情報は財務書類の注記10に開示される。

（＊）百分率で表示された純資産合計に対する時価の比率。

4【管理会社の概況】

（１）【資本金の額】

管理会社の資本金は、200万200香港ドル（約2,818万円）で、2021年7月末日現在全額払込済である。

なお、1株100香港ドル（約1,409円）の記名式株式2万2株を発行済である。

（注）香港ドルの円換算額は、便宜上、2021年7月30日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1香港ドル＝14.09円）による。

（２）【事業の内容及び営業の状況】

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、トラストの管理会社である。

管理会社は、管理会社が受託会社に対して当該委託が生ずる前または当該委託が生じた後合理的な期間内に当該委託について書面により通知することを条件に、受託会社の事前の承認を得ることなく、管理会社が決定する1以上の個人、団体または法人に対して、その権利、特典、権能、義務および裁量の全部または一部ならびに信託証書に基づくそのいずれかの職務の履行を（関連するサブ・ファンドの費用で）委託する権能および権限を有する。ただし、以下に掲げる事項をその条件とする。

- （a）管理会社は、各委託先が信託証書の規定（適用ある範囲において）を遵守することを確保するために、あらゆる合理的な努力をする。
- （b）適用ある法律によって要求される限りにおいて、管理会社は、当該委託先の作為または不作為についてかかる作為または不作為が管理会社自身のものであるかのように責任を負うが、その他当該委託先またはその再委託先の行為を監督することを義務付けられず、かつ、かかる損失が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行の結果として発生した場合を除き、委託先または再委託先の作為または不作為を理由としてトラスト（いずれかのサブ・ファンドを含む。）が被った損失について一切責任を負わない。
- （c）当該者との書面による合意は、個別的に受託会社に対してではなく、関連するサブ・ファンドの信託財産のみに対して当該合意に基づく求償を制限する条項を含む。

管理会社は、いかなる場合または理由においても、信託財産またはそのいずれか一部が被ったまたはその収益について生じた損失または損害につき責任を負わない。ただし、かかる損失または損害が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行により生じたものである場合はこの限りではない。

管理会社は、トラストに関する潜在的債権者との取引においても、当該債権者に対して支払義務を負うもしくは将来その可能性がある債務、義務または負債を満足させるために、当該債権者が関連するサブ・ファンドの資産に対してのみ求償権を有することを確保する。

管理会社は、関連するサブ・ファンドの管理会社として負担したまたは当事者となった訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用（すべての合理的な弁護士費用、専門家費用およびその他の類似費用を含む。）または要求の全部もしくは一部に対して、当該サブ・ファンドの信託財産より補償される。上記にかかわらず、

- （a）管理会社は、あるサブ・ファンドの信託財産から、他のサブ・ファンドに関して被った債務に対して補償を受ける権利を有さない。
- （b）管理会社は、管理会社が被った訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用または要求で、ケイマン諸島の裁判所によって管理会社またはその関連会社およびこれらの取締役、役員もしくは従業員の現実の詐欺または故意の不履行より生じたものであることが認定されたものに関しては、いかなる補償も受けることができない。

管理会社は、受託会社に対して90日前（または受託会社が合意するより短い期間）の書面による通知を行うことにより退任することができる。管理会社が退任の意思を示した通知を行ってから60日以内に承継管理者が選任されていない場合、すべてのサブ・ファンドが終了する。

管理会社は、受託会社が信託証書に基づくその義務の重大な違反を行い、かつ（当該違反が治癒可能である場合に）当該違反の治癒を要求する管理会社による通知の受領から30日以内にこれを是正しない場合、受託会社に対して書面による通知を行うことにより、いつでも信託証書に基づくその任務から退く権利を有する。

管理会社が退任するかまたは解任された場合であって、かつかかる退任または解任の後受託会社が決定する期間内にあらゆる点において管理会社に代わる者として相応しい者であると受託会社が決定する後任の管理会社を受託会社が特定することができない場合、受託会社は、直ちに全受益者による集会を招集する。当該受益者集会において、受益者は、受益者決議をもって管理会社の任務を受諾する意思のある他の者、団体または会社を受益者の望む後任の管理会社として指名することができ、受益者は、受託会社に対して、その旨を書面により通知するものとする。当該通知後直ちに、受託会社は、追補信託証書および／または適切な場合、投資運用契約の条項により、望ましい後任の管理会社を管理会社として選任する。受益者が管理会社の任務を受諾する意思のある他の者、団体または会社を受益者の望む後任の管理会社として指名しなかった場合、受託会社は、トラストを終了させることができる。

受託会社は、投資運用契約に定める条件でトラストおよび各サブ・ファンドの投資運用者として行為するよう管理会社を選任している。投資運用契約の条件に基づき、管理会社は、各サブ・ファンドの資産の投資および再投資ならびに投資運用サービスの履行につき責任を負う。

投資運用契約に基づき、管理会社は、いかなる場合または理由においても、受託会社、信託財産またはいずれかのサブ・ファンドが負担または被った損失または損害につき責任を負わない。ただし、かかる損失または損害が管理会社の現実の詐欺または故意の不履行により生じたものである場合はこの限りではない。管理会社は、間接的、特別または派生的な損失につき責任を負わない。管理会社は、関連するサブ・ファンドの管理会社として負い、負担または被る可能性のある訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用（すべての合理的な弁護士費用、専門家費用およびその他の類似費用を含む。）または要求の全部もしくは一部に対して、当該サブ・ファンドの信託財産から補償を受ける権利を有する。ただし、管理会社は、管理会社が被った訴訟、訴訟手続、債務、経費、請求、損害、費用または要求で、ケイマン諸島の裁判所によって管理会社またはその関連会社およびこれらの取締役、役員もしくは従業員の現実の詐欺または故意の不履行より生じたものであることが認定されたものに関しては、いかなる補償も受けることができない。投資運用契約は、管理会社が受託会社に対して90日以上前に書面による通知を行うことにより（その逆の場合も同様とする。）、または投資運用契約に定めるその他の状況において終了する。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドは、香港で設立された会社であり、シティグループ・インクの間接完全子会社であるシティグループ・グローバル・マーケット・ホンコン・ホールディングス・リミテッドの完全子会社である。香港法第571章の証券先物法（以下「SF0」という。）第116条に従って、管理会社は、SF0の別紙5に定義されるタイプ4および9の規制対象活動に関して認可を受けている。かかる規制対象活動は、証券および資産運用に関する助言を含む。

管理会社の取締役は以下のとおりである。

シリル・トルブレウィッチ氏は、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの取締役兼アジア・パシフィック・マルチ・アセット・グループの長である。マルチ・アセット・グループは、資産家、個人、企業および機関顧客に対する投資商品および投資ソリューションの販売の考案、組成および手配を行う地域的投資ソリューションの基盤となる組織である。トルブレウィッチ氏は、グループ長の職務に就くまで、アジアの機関顧客および販売パートナーに対する新商品戦略の指揮をとり、受賞歴のある幅広いソリューション開発を監督していた。トルブレウィッチ氏は、2003年にロンドンのシティグループ・グローバル・マーケット・リミテッドにマルチ・アセット・デリバティブ・ストラクチャラーとして入社し、2007年にアジアに異動した。

ソン・リ氏は、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックの長であり、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシ

フィックの地域の投資ファンド事業の運営および開発に責任を負う。シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメントのアジア・パシフィックは、アジア・パシフィックの機関投資家、富裕投資家および一般投資家のために投資ファンドおよびファンド・ソリューションを作り出す。リ氏は、ウォール・ストリートおよびアジアにおいて26年を超える投資経験を有する。シティグループに入社する前は、ニューヨークおよびその後香港のアライアンス・バーンスタイン・アセット・マネジメントにおいて、少数の主力商品で1,600億米ドルにのぼる運用資産額を監督するブレンド・ソリューション・チームでシニア・ポートフォリオ・マネジャーを務めた。アライアンス・バーンスタインに勤務する前は、ニューヨークのドイチェ・アセット・マネジメントおよびシティグループ・アセット・マネジメントでポートフォリオ管理およびリサーチに関する様々な職務に携わっていた。

管理会社は、2021年7月末日現在、44本のファンドを運用している。

管理会社が運用している44本のファンドは、以下のとおり、分類される。

分類		内訳	
A分類	通貨建別運用金額	円建	388,067,604,532円
		米ドル建	2,165,414,077米ドル
		ユーロ建	31,897,327ユーロ
		英ポンド建	40,401英ポンド
B分類	ファンドの種類 (基本的性格)	ケイマン籍／契約型／オープン・エンド型	23本
		ケイマン籍／会社型／オープン・エンド型	1本
		アイルランド籍／会社型／オープン・エンド型	1本
		日本籍／証券投資信託／オープン・エンド型 (委託会社に対する副運用会社として)	19本

(3) 【その他】

管理会社については、2021年9月末日前6か月以内において、訴訟事件その他管理会社に重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はない。

5【管理会社の経理の概況】

- a. 管理会社の直近事業年度の日本語の財務書類は、香港における諸法令および一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された原文の財務書類を翻訳したものである（ただし、円換算部分を除く。）。これは「特定有価証券の内容等の開示に関する内閣府令」に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第131条第5項ただし書の規定の適用によるものである。
- b. 管理会社の原文の財務書類は、外国監査法人等（公認会計士法（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定する外国監査法人等をいう。）であるケーピーエムジーから監査証明に相当すると認められる証明を受けており、当該監査証明に相当すると認められる証明に係る監査報告書に相当するもの（訳文を含む。）が当該財務書類に添付されている。
- c. 管理会社の原文の財務書類は、香港ドルで表示されている。日本語の財務書類には、主要な金額について2021年7月30日現在における株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（1香港ドル＝14.09円）で換算された円換算額が併記されている。なお、1円未満の金額は四捨五入されている。円換算額は、四捨五入のため合計欄の数値が総額と一致しない場合がある。
- d. 管理会社の年次財務書類は、原文（英語版）のみが監査され、監査報告書が参照しているのは原文（英語版）のみである。年次財務書類および監査報告書がその他の言語に翻訳される場合、管理会社が年次財務書類および監査報告書の訳文の正確性に責任を負う。

（１）【資産及び負債の状況】

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2020年12月31日に終了した事業年度の財務書類

純損益およびその他の包括利益計算書

2020年12月31日に終了した事業年度

（表示：香港ドル）

	注記	2020年 香港ドル	2020年 円	2019年 香港ドル	2019年 円
売上高	2	40,012,764	563,779,845	39,835,244	561,278,588
受取利息		839,852	11,833,515	2,992,020	42,157,562
為替（差損）差益		(126,878)	(1,787,711)	135,570	1,910,181
その他の営業費用		(24,019,968)	(338,441,349)	(20,048,154)	(282,478,490)
税引前利益	3	16,705,770	235,384,299	22,914,680	322,867,841
法人税	4 (a)	(2,621,364)	(36,935,019)	(3,244,882)	(45,720,387)
当期利益		14,084,406	198,449,281	19,669,798	277,147,454
当期その他の包括利益		—	—	—	—
当期包括利益合計		14,084,406	198,449,281	19,669,798	277,147,454

11ページから30ページ（訳注：原文のページ）の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2020年12月31日に終了した事業年度の財務書類

財政状態計算書

2020年12月31日現在

（表示：香港ドル）

	注記	2020年 香港ドル	2020年 円	2019年 香港ドル	2019年 円
非流動資産					
繰延税金資産	4 (c)	17,202	242,376	19,753	278,320
流動資産					
売掛金およびその他の資産	7	6,375,325	89,828,329	9,949,200	140,184,228
未収税金	4 (c)	623,061	8,778,929	—	—
現金および現金同等物	6	281,524,689	3,966,682,868	257,483,338	3,627,940,232
		288,523,075	4,065,290,127	267,432,538	3,768,124,460
流動負債					
買掛金および未払費用	8	18,587,209	261,893,775	7,921,181	111,609,440
未払税金	4 (c)	—	—	3,662,448	51,603,892
		18,587,209	261,893,775	11,583,629	163,213,333
純流動資産		269,935,866	3,803,396,352	255,848,909	3,604,911,128
純資産		269,953,068	3,803,638,728	255,868,662	3,605,189,448
資本および剰余金					
株式資本	9 (a)	2,000,200	28,182,818	2,000,200	28,182,818
剰余金		267,952,868	3,775,455,910	253,868,462	3,577,006,630
資本合計		269,953,068	3,803,638,728	255,868,662	3,605,189,448

2021年4月28日に取締役会によって発行を承認、認可された。

)

[署名])

) 取締役

[署名])

)

11ページから30ページ（訳注：原文のページ）の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2020年12月31日に終了した事業年度の財務書類

資本変動計算書

2020年12月31日に終了した事業年度

（表示：香港ドル）

	株式資本 香港ドル	剰余金 香港ドル	合計 香港ドル
2019年1月1日現在残高	2,000,200	234,198,664	236,198,864
当期包括利益合計	—	19,669,798	19,669,798
2019年12月31日現在残高	2,000,200	253,868,462	255,868,662
2020年1月1日現在残高	2,000,200	253,868,462	255,868,662
当期包括利益合計	—	14,084,406	14,084,406
2020年12月31日現在残高	2,000,200	267,952,868	269,953,068
	株式資本 円	剰余金 円	合計 円
2019年1月1日現在残高	28,182,818	3,299,859,176	3,328,041,994
当期包括利益合計	—	277,147,454	277,147,454
2019年12月31日現在残高	28,182,818	3,577,006,630	3,605,189,448
2020年1月1日現在残高	28,182,818	3,577,006,630	3,605,189,448
当期包括利益合計	—	198,449,281	198,449,281
2020年12月31日現在残高	28,182,818	3,775,455,910	3,803,638,728

11ページから30ページ（訳注：原文のページ）の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド
2020年12月31日に終了した事業年度の財務書類

キャッシュ・フロー計算書

2020年12月31日に終了した事業年度

（表示：香港ドル）

	注記	2020年 香港ドル	2020年 円	2019年 香港ドル	2019年 円
営業活動					
税引前利益		16,705,770	235,384,299	22,914,680	322,867,841
調整：					
受取利息		(839,852)	(11,833,515)	(2,992,020)	(42,157,562)
運転資本変動前営業活動による キャッシュ・フロー		15,865,918	223,550,785	19,922,660	280,710,279
売掛金およびその他の資産の 減少／（増加）		3,573,875	50,355,899	(2,450,828)	(34,532,167)
買掛金および未払費用の 増加／（減少）		10,666,028	150,284,335	(15,804,301)	(222,682,601)
営業から生じた正味現金		30,105,821	424,191,018	1,667,531	23,495,512
香港利得税支払額		(6,904,322)	(97,281,897)	(460,512)	(6,488,614)
営業活動から生じた正味現金		23,201,499	326,909,121	1,207,019	17,006,898
投資活動					
利息受取額		839,852	11,833,515	2,992,020	42,157,562
投資活動から生じた正味現金		839,852	11,833,515	2,992,020	42,157,562
現金および現金同等物の純増加		24,041,351	338,742,636	4,199,039	59,164,460
1月1日現在の現金および 現金同等物		257,483,338	3,627,940,232	253,284,299	3,568,775,773
12月31日現在の現金および 現金同等物	6	281,524,689	3,966,682,868	257,483,338	3,627,940,232

11ページから30ページ（訳注：原文のページ）の注記は本財務書類の一部である。

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド

2020年12月31日に終了した事業年度の財務書類

財務書類に対する注記

(表示：香港ドル)

1 重要な会計方針

(a) 法令遵守の表明

本財務書類は、該当するすべての香港財務報告基準（以下「HKFRS」という。）に準拠して作成されている。HKFRSとは、香港公認会計士協会（以下「HKICPA」という。）が公表した該当するすべての個々の香港財務報告基準、香港会計基準（以下「HKAS」という。）および解釈指針、香港で一般に公正妥当と認められる会計原則ならびに香港会社法の適用要件を含む総称である。当社が適用した重要な会計方針は、以下に開示されている。

HKICPAは、当社の当会計期間に初度適用される、または早期適用が可能である、特定のHKFRSの修正を公表している。注記1（c）には、これらの変更の初度適用による会計方針の変更に関する情報が、本財務書類に反映される当会計期間および過年度の会計期間において当社に関連する範囲で記載されている。

(b) 財務書類作成の基礎

本財務書類の作成に用いている測定基準は、取得原価主義である。

当社は、当社に関連する原資産および状況の経済的実質を反映する機能通貨として香港ドルを選択している。別段の指示がない限り、すべての価額について香港ドル未満の位は四捨五入されている。

HKFRSに準拠した財務書類の作成において、経営陣は、会計方針の適用ならびに資産、負債、収益および費用の報告金額に影響を与える判断、見積りおよび仮定を行うことが要求される。見積りおよび関連する仮定は、状況に応じて合理的であると考えられる過去の実績およびその他の様々な要因に基づいており、その結果は、他の根拠からでは算定が容易でない資産および負債の帳簿価額について判断を下す際の根拠となっている。実際の結果はこれらの見積りとは異なる可能性がある。

見積りおよび基礎となる仮定は、継続的に検証される。会計上の見積りの変更が特定の期間だけに影響を与える場合は、見積りの変更が行われる期間に認識され、変更が当期間および将来の期間に影響を与える場合は、変更が行われる期間および将来の期間に認識される。

（c）会計方針の変更

多くの新しい基準が2020年1月1日から適用されるが、これらは当社の財務書類に重要な影響を与えるものではない。

（d）財政状態計算書における表示の変更

過年度において、関連会社に対する債権／債務は、流動資産および流動負債にそれぞれ個別に表示されていた。2020年以降、かかる債権および債務は、売掛金およびその他の資産ならびに未払費用およびその他の未払金に統合されている。比較数値は、表示の変更に合わせて修正再表示されている。

（e）現金および現金同等物

現金および現金同等物は、当座預金、手元現金、銀行およびその他の金融機関に対する要求払預金、ならびに取得時点から満期までの期間が3ヶ月以内であり、確定金額に容易に換金が可能で、かつ価格の変動リスクが小さい、短期で流動性の高い投資から構成される。

（f）収益およびその他の収益

収益は、当社の通常の事業の過程において、トレーディング活動、サービスの提供から生じる収益として当社によって分類される。

収益は、物品またはサービスに対する支配が顧客に移転される場合、または借手が、第三者のために回収された金額を除き、当社が権利を有すると予想される約束された対価の金額で当該資産を使用する権利を有する場合に認識される。

契約に12ヶ月を超える期間にわたり顧客に重大な金融の便益を提供する金融要素がある場合、収益は、債権額の現在価値で測定され、顧客との個別の金融取引に反映される割引率を用いて割り引かれ、受取利息は実効金利法に基づき個別に計上される。契約が当社に重大な金融の便益を提供する金融要素を含んでいる場合、当該契約に基づいて認識される収益には、実効金利法に基づいて契約負債に計上される利息費用が含まれる。当社は、HKFRS第15号の第63項の実務上の便法を利用しており、資金調達期間が12ヶ月以内である場合には、重大な金融要素の影響に対する対価を調整することはない。

当社の収益およびその他の収益の認識基準の詳細は以下のとおりである。

- － 受取報酬は、該当するサービスが提供された時点で認識される。
- － 受取利息は、実効金利法を用いて発生した時点で認識される。

（g）引当金および偶発債務

引当金は、当社に過去の事象の結果として発生した法的債務または推定債務があり、当該債務を決済するために経済的便益の流出が必要となる可能性が高く、かつ信頼性の高い見積りが可能な場合に認識される。貨幣の時間的価値が重要な場合、引当金は当該債務を決済するために予想される費用の現在価値で計上される。

経済的便益の流出が必要となる可能性が低い、または信頼性をもって金額を見積ることができない場合、当該債務は偶発債務として開示される。ただし、経済的便益の流出の可能性が僅少の場合を除く。発生可能性のある債務で、その存在が将来の1つまたは複数の事象が発生する、あるいは発生しないことによってのみ確認される場合もまた、偶発債務として開示される。ただし、経済的便益の流出の可能性が僅少の場合を除く。

（h）売掛金およびその他の債権

売掛金およびその他の債権は公正価値で当初認識され、その後、予想損失引当金（注記1（1）（v）参照）控除後の実効金利法を用いた償却原価で計上される。ただし、債権が定められた返済条件のない関連当事者に対する無金利融資である場合、または割引の影響に重要性がない場合には、債権は不良債権の減損引当金控除後の取得原価で計上される。

不良債権に関する減損損失は、減損の客観的な証拠が存在する場合に認識され、当該金融資産の帳簿価額と、割引の影響が重要である場合は当該資産の当初の実効金利で割り引いた見積将来キャッシュ・フローとの差額として測定される。

減損の客観的な証拠には、借手の著しい財政的困難といった資産の見積将来キャッシュ・フローに影響を及ぼす事象について、当社が認識する観察可能なデータが含まれている。

（i）外貨換算

期中の外貨建取引は、取引日現在の外国為替レートで香港ドルに換算される。外貨建の貨幣性資産および負債は、報告期間の期末時点の為替レートで香港ドルに換算される。為替差損益は純損益およびその他の包括利益計算書に認識される。

（j）法人税

当期法人税は、当期税金費用および繰延税金資産と繰延税金負債の変動で構成される。当期税金費用および繰延税金資産の変動は純損益およびその他の包括利益計算書に認識される。ただし、その他の包括利益に認識される、または資本に直接認識される項目に関連する場合には、法人税のうちの該当する金額がそれぞれ、その他の包括利益に認識される、または資本に直接認識される。

当期税金費用は、報告期間の期末時点の実効税率または実質的な実効税率を使用した、当期の課税所得に係る予想未払税額および過年度の未払税金に対する調整額である。

繰延税金資産は、資産および負債の財務報告上の帳簿価額と課税基準の差額である、減算一時差異から発生する。繰延税金資産は、未使用の税務上の欠損金および未使用の税額控除からも発生する。資産および負債の当初認識時から発生する差額を除き、すべての繰延税金資産は、当該資産が利用できる将来の課税所得の実現可能性が高い場合に限り、認識される。

繰延税金の認識額は、当該資産および負債の帳簿価額の実現または決済において予想される方法に基づき、報告期間の期末時点の実効税率または実質的な実効税率を使用して測定される。繰延税金資産および負債は割り引かれない。

当期税金残高および繰延税金残高ならびにその変動は、それぞれ個別に表示され、相殺されない。当社が当期税金資産を当期税金負債と相殺する法的強制力のある権利を有する場合に限り、当期税金資産は当期税金負債と相殺され、繰延税金資産は繰延税金負債と相殺される。相殺の原則は通常、同一の税務当局が同一の課税企業に課す法人税に対して適用される。

(k) 関連当事者

(a) 個人または当該個人の近親者は、当該個人が次のいずれかに該当する場合には、当社と関連がある。

- (i) 当社に対する支配または共同支配を有している。
- (ii) 当社に対する重要な影響力を有している。あるいは
- (iii) 当社または当社の親会社の経営幹部の一員である。

(b) 企業は、次のいずれかの条件に該当する場合には、当社と関連がある。

- (i) 当該企業および当社が同一のグループの一員である（これは、親会社、子会社および兄弟会社は互いに関連があることを意味している）。
- (ii) 一方の企業が、他方の企業の関連会社または共同支配企業（あるいは他方の企業が一員となっているグループの一員の関連会社または共同支配企業）である。
- (iii) 双方の企業が同一の第三者の共同支配企業である。
- (iv) 一方の企業が第三者の共同支配企業であり、他方の企業が当該第三者の関連会社である。
- (v) 当該企業が当社または当社と関連がある企業のいずれかの従業員の給付のための退職後給付制度である。
- (vi) 当該企業が(a)に示した個人に支配または共同支配されている。
- (vii) (a)(i)に示した個人が当該企業に重要な影響力を有しているか、あるいは当該企業（または当該企業の親会社）の経営幹部の一員である。
- (viii) 当該事業体、あるいはその一部であるグループの一員が、当社または当社の親会社に経営幹部サービスを提供する。

個人の近親者とは、企業との取引において当該個人に影響を与えるか、または影響されると予想される親族の一員のことである。

（1）金融商品

（i）当初認識

金融商品は当初、公正価値で測定されるが、これは通常、取引価格と同額である。純損益を通じて公正価値で測定する金融資産または金融負債以外の金融資産または金融負債の場合、当該金融資産または金融負債の取得または発行に直接帰属する取引費用が公正価値に加えられる。

当社は、金融資産および金融負債を、当該商品の契約上の規定の当事者になった日に認識する。金融資産の通常の売買は、取引日基準を用いて認識される。当該取引日から、金融資産または金融負債の公正価値の変動から発生する損益が計上される。

（ii）分類と事後測定

（A）金融資産の分類

当初認識時に、当社は償却原価またはFVTPLで測定する金融資産を分類する。

金融資産は、以下の要件をともに満たし、かつ、FVTPLとして指定されていない場合、償却原価で測定される。

- － 契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルの中で保有されていること
- － その契約条件により、元本および利息の支払のみ（以下「SPPI」という。）であるキャッシュ・フローが特定の日に生じること

当社のその他のすべての金融資産は、FVTPLで測定される。

事業モデル評価

当社は、金融資産を保有する事業モデルの目的を評価する際に、以下を含む、事業の管理方法に関するすべての関連情報を考慮している。

- － 文書化された投資戦略と当該戦略の実施。これには、投資戦略が契約上の受取利息を獲得すること、特定の金利プロファイルを維持すること、金融資産のデュレーションに関連する負債のデュレーションまたは予想キャッシュ・アウトフローと対応させること、あるいは資産の売却によりキャッシュ・フローを実現することに焦点を当てているかどうかが含まれる。
- － ポートフォリオのパフォーマンスが、どのように評価され、当社の経営陣に報告されているか
- － 事業モデル（および当該事業モデルの中で保有されている金融資産）の業績に影響を与えるリスクと、当該リスクが管理されている方法
- － 当該事業の管理者にどのように報酬が与えられるのか（例えば、報酬の基礎となるのは管理している資産の公正価値なのか、回収した契約上のキャッシュ・フローなのか）
- － 過年度における金融資産の売却の頻度、量および時期、当該売却の理由、ならびに将来の売却活動についての予想

売買目的で保有されている金融資産または公正価値に基づいて管理と業績評価が行われている金融資産は、契約上のキャッシュ・フローを回収するために保有されているのではなく、契約上のキャッシュ・フローの回収と金融資産の売却の両方のために保有されているのでもないため、FVTPLで測定される。

契約上のキャッシュ・フローがSPPIであるかどうかの評価

この評価の目的上、「元本」は、当初認識時における金融資産の公正価値と定義される。「金利」とは、貨幣の時間価値、特定の期間における元本残高に関する信用リスクならびに他の基本的な融資リスクおよびコスト（例えば、流動性リスクおよび管理コスト）への対価と利益マージンとして定義される。

契約上のキャッシュ・フローがSPPIであるかどうかを評価する際に、当社は当該商品の契約条件を考慮する。これには、金融資産がこの条件を満たさないような契約上のキャッシュ・フローの時期または金額を変更させる可能性のある契約条件を含んでいるかどうかを評価することが含まれる。当社は、この評価を行うにあたり、以下の事項を考慮している。

- キャッシュ・フローの金額またはタイミングを変更する偶発的事象
- レバレッジ要素
- 期限前償還要素と期限延長要素
- 当社の請求権を特定の資産からのキャッシュ・フロー（例えば、ノンリコース要素）に限定する条件
- 貨幣の時間的価値の考慮（例えば、金利の定期的な再設定）を修正する要素

分類変更

金融資産は、当社が金融資産の管理に関する事業モデルを変更した後の期間を除き、当初認識後に再分類されない。

（B）金融資産の分類

貸付金および債権

貸付金および債権には、兄弟会社に対する債権、売掛金およびその他の資産ならびに現金および現金同等物が含まれている。これらの資産は実効金利法による償却原価で測定される。

その他の金融負債

金融負債には、兄弟会社に対する債務、買掛金および未払費用が含まれている。これらの負債は実効金利法による償却原価で測定される。

（iii）認識の中止

金融資産は、当該金融資産からのキャッシュ・フローを受け取る契約上の権利が消滅した場合、あるいは当該金融資産とともに所有に関する実質的にすべてのリスクおよび経済価値が譲渡された場合に、認識が中止される。

金融負債は、契約で特定された債務が免除、解消あるいは消滅した場合に、認識が中止される。

当社は、認識の中止に際して純損益およびその他の包括利益計算書に認識される実現損益の決定に加重平均法を利用している。

（iv）相殺

認識額を相殺する法的強制力のある権利があり、純額ベースでの決済、または資産の実現と負債の決済を同時に行う意図がある場合、金融資産と金融負債は相殺され、その純額が財政状態計算書に計上される。

（v）減損

当社は、償却原価で測定する金融資産について、ECLに対する損失評価引当金を認識している。

当社は、12ヶ月のECLで測定される以下の金融資産を除き、全期間のECLに等しい金額で損失評価引当金を測定する。

- ー 報告日において信用リスクが低いと判断される金融資産
- ー 信用リスク（すなわち、資産の予想存続期間にわたって債務不履行が発生するリスク）が当初認識以降に著しく増大していないその他の金融資産

当社は、期限経過が30日超である場合、金融資産の信用リスクが著しく増大したと仮定する。

当社は、信用リスク格付が「投資適格」という世界的に理解されている定義と同等である場合、金融商品の信用リスクは低いとみなしている。

全期間のECLとは、金融商品の予想存続期間にわたって生じ得るすべての債務不履行事象から生じるECLである。

12ヶ月間のECLは、報告日から12ヶ月以内（または、金融商品の予想存続期間が12ヶ月未満である場合には、それより短い期間）に生じ得る債務不履行事象から生じるECLの一部である。

ECLを見積もる際に考慮すべき最長の期間は、当社が信用リスクにさらされる最長の契約期間である。

ECLの測定

ECLは、信用損失の確率加重した見積りである。信用損失は、すべてのキャッシュ不足額（すなわち、当社が契約に従って受け取るべきキャッシュ・フローと、当社が受け取ると見込んでいるキャッシュ・フローとの差額）の現在価値として測定される。

ECLは金融資産の実効金利で割り引かれる。

信用減損金融資産

当社は、各報告日において、償却原価で計上されている金融資産が信用減損しているかどうかを評価している。金融資産は、金融資産の見積将来キャッシュ・フローに不利な影響を及ぼす1つまたは複数の事象が生じている場合に、「信用減損」している。

金融資産が信用減損している証拠には、以下の観察可能なデータが含まれる。

- 発行者または債務者の重大な財政的困難
- 契約違反（債務不履行または90日超の期限経過事象など）
- 借手が破産または他の財務上の再編を行う可能性が高くなったこと

財政状態計算書におけるECL引当金の表示

償却原価で測定する金融資産の損失評価引当金は、資産の総額での帳簿価額から控除される。

直接償却

当社がある金融資産全体または一部分の回収に合理的な予想を有していない場合には、金融資産の総額での帳簿価額は直接償却される。

2 売上高

当社の主たる事業は、投資運用サービスの提供である。

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
受取投資運用報酬	40,012,764	39,835,244
	40,012,764	39,835,244

3 税引前利益

税引前利益は、以下の借方計上後の金額で計上されている。

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
支払管理報酬	6,456,764	4,666,331
支払サブ・マネージャー報酬	8,107,596	4,078,536
弁護士および専門家報酬	7,988,111	10,742,855
監査報酬	468,286	468,286
保管費用	332,108	—
印刷費	190,903	—
その他	476,200	92,146

4 法人税

(a) 純損益およびその他の包括利益計算書に係る法人税は以下の通りである。

純損益およびその他の包括利益計算書に係る課税は以下の通りである。

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
当期税金費用－香港利得税		
過年度に係る超過引当金	(20,001)	(19,989)
当期の香港利得税に対する引当金	2,638,814	3,261,875
繰延税金		
一時差異の発生および解消	2,551	2,996
	<u>2,621,364</u>	<u>3,244,882</u>

当期の香港利得税に対する引当金は、見積課税所得の16.5%（2019年：16.5%）で計算されている。

(b) 法人税と適用税率で算定された会計上の利益の調整：

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
税引前利益	<u>16,705,770</u>	<u>22,914,680</u>
税率16.5%（2019年：16.5%）での 税引前利益に係る想定税額	2,756,452	3,780,923
非課税所得および損金不算入損失の税効果	(115,087)	(516,052)
過年度に係る超過引当金	<u>(20,001)</u>	<u>(19,989)</u>
実際の税金費用	<u>2,621,364</u>	<u>3,244,882</u>

(c) 財政状態計算書に係る法人税は以下の通りである。

財政状態計算書に係る（未収税金）／当期の課税は以下の通りである。

注記	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
----	---------------	---------------

当期の繰越税金		3,662,448	881,075
利得税支払額		(6,904,322)	(460,513)
過年度に係る利得税に対する引当金残高		(20,001)	(19,989)
当期の香港利得税に対する引当金	4 (a)	2,638,814	3,261,875
		(623,061)	3,662,448

繰延税金資産認識額：

財政状態計算書において認識される繰延税金資産の内訳および当事業年度における変動は、以下の通りである。

	減価償却限度超過額 香港ドル	合計 香港ドル
2019年1月1日現在	22,749	22,749
純損益およびその他の包括利益計算書への 借方計上額	(2,996)	(2,996)
2019年12月31日現在	19,753	19,753
2020年1月1日現在	19,753	19,753
純損益およびその他の包括利益計算書への 借方計上額	(2,551)	(2,996)
2020年12月31日現在	17,202	19,753

2020年12月31日現在、認識されていない、または引当計上されていない重要な繰延税金資産または負債はなかった（2019年：ゼロ）。

5 取締役の報酬

香港会社法の第383条（1）および社内規定のパート2（取締役の給付に関する情報の開示）に準拠して開示される取締役の報酬は以下の通りである。

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
取締役の報酬	—	—
給与、手当および現物給付	7,478,000	7,478,000
変動賞与	9,277,210	8,494,866
株式報酬	2,227,319	2,131,543
退職制度への拠出額	750,500	740,100
	<u>19,733,029</u>	<u>18,844,509</u>

6 現金および現金同等物

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
当座預金	<u>281,524,689</u>	<u>257,483,338</u>

7 売掛金およびその他の資産

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
未収投資運用報酬	6,008,164	5,444,468
未収弁護士および専門家報酬	236,399	3,731,358
その他	130,762	773,374
	<u>6,375,325</u>	<u>9,949,200</u>

上記の未収報酬はすべて、当社が運用するファンドから支払われる。すべての未収報酬は、無金利、無担保であり、3ヶ月以内に決済される見込みである。

8 買掛金および未払費用

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
未払サブ・マネージャー報酬	—	580,425
未払弁護士および専門家報酬	4,884,580	4,840,130
監査報酬	460,648	460,648
その他の未払金	13,241,981	2,039,978
	<u>18,587,209</u>	<u>7,921,181</u>

未払サブ・マネージャー報酬には、兄弟会社に対する債務がゼロ香港ドル（2019年：580,425香港ドル）含まれていた。すべての買掛金および未払費用は、無金利、無担保であり、3ヶ月以内に決済される見込みである。

9 株式資本

（a）発行済株式資本

	2020年		2019年	
	株数	金額 香港ドル	株数	金額 香港ドル
発行済、全額払込済普通株式：				
1月1日および12月31日現在	20,002	2,000,200	20,002	2,000,200

香港会社法の第135条に準拠して、当社の普通株式は無額面株式である。

普通株式の株主には、折々に宣言される配当を受け取る権利があり、当社の株主総会において1株につき1議決権を有する。すべての普通株式は、当社の残存資産に関して同等に位置づけられている。

（b）資本管理

資本管理における当社の主たる目的は、継続企業として存続する当社の能力を保護することである。当社はある大規模なグループの一部であるため、当社の追加資本の源泉および余剰資金の分配に関する方針は、当該グループの資本管理目的の影響も受けることがある。

当社は、資本のすべての構成要素を含めて「資本」として定義している。この基準において、2020年12月31日現在の資本金額は269,953,068香港ドル（2019年：255,868,662香港ドル）であった。

当社の資本構造は、当社が所属するグループの資本管理の方策に配慮して定期的に見直され、管理されている。当社の資本構造の調整は、当社またはグループに影響を及ぼす経済環境の変化を考慮し、当社に対する取締役会の忠実義務または香港会社法の要件と矛盾しない範囲で行われる。

取締役会による当社の資本構造の見直しの結果は、配当が宣言される場合に、配当水準を決定するための基準として使用される。

香港証券先物法に基づき登録された認可企業として、当社は香港証券先物（金融資源）規則（以下「FRR」という。）の資本規制の対象にもなっている。流動資本の最低必要額は、100,000香港ドルとFRRで定められた必要流動資本のいずれか高い方である。当社は、FRRの要件を遵守していることを日次ベースでモニターしている。当事業年度中、当社は常にFRRの要件を遵守していた。

10 重要な関連当事者取引

本財務書類において別途開示されている取引の他、当社は、通常の営業過程において関連当事者と以下の取引を行った。

(a) 受取報酬および支払報酬

	注記	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
受取報酬			
受取投資運用報酬	(ii)	40,012,764	39,835,244
支払報酬			
支払サブ・マネージャー報酬	(iii)	6,967,624	1,900,215

(i) 当社は当事業年度において以下のファンドのファンド・マネージャーである。

- ハイブリッド・トライ・アセット・ファンド（円建）（以下「ファンド・シリーズ14」という。）
（2020年10月6日に償還）
- アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（以下「ファンド・シリーズ18」という。）
- メキシコ・ボンド・ファンド（以下「ファンド・シリーズ19」という。）
- テンプルトン世界債券ファンド 外貨建てシリーズ（以下「ファンド・シリーズ20」という。）
- グローバル・バランス・プラス・ファンド（以下「ファンド・シリーズ25」という。）
- ノース・アメリカン・エクイティ・インカム・カバード・コール・ストラテジー・ファンド（以下「ファンド・シリーズ26」という。）（2020年6月5日に償還）
- 米国成長株集中投資ファンド 外貨建てシリーズ（以下「ファンド・シリーズ27」という。）
- トレジャリー・プレミアム・プラス・ファンド（以下「ファンド・シリーズ28」という。）
- フィクスト・インカム・ファンド（以下「ファンド・シリーズ30」という。）
- トレジャリー・プレミアム・プラスIIファンド（以下「ファンド・シリーズ31」という。）
- 米ドル建て償還時目標設定型ファンド1703（以下「ファンド・シリーズ32」という。）
- 高配当日本株リスクコントロール型（以下「ファンド・シリーズ33」という。）
- 米ドル建て償還時目標設定型ファンド1710（以下「ファンド・シリーズ34」という。）
- JGBアセット・スワップ・ファンド（以下「ファンド・シリーズ36」という。）
- 日経225連動イントラデイ・ファンド（以下「ファンド・シリーズ37」という。）
- 償還時目標設定型ファンド1802（以下「ファンド・シリーズ38」という。）
- チャイナ・ホンコン・エクイティ・オポチュニティーズ・ファンド（以下「ファンド・シリーズ39」という。）
- 償還時目標設定型ファンド1809（以下「ファンド・シリーズ40」という。）
- マルチ・アセット・システマティック・ストラテジーズ・ファンド（以下「ファンド・シリーズ41」という。）（2020年10月15日に設定）
- 償還時目標設定型ファンド1903（以下「ファンド・シリーズ42」という。）
- フレキシベータ・ファンド（VT5ディフェンシブおよびVT10アクティブ）（以下「ファンド・シリーズ43」という。）

- － 米ドル建てシティグループ・ノート・リターン・リファリング・ザ・ハイ・ウォーターマーク・オブ・グローバル・マルチ・アセット・ストラテジー・ファンド（以下「ファンド・シリーズ44」という。）（2020年1月21日に設定）
- － グローバル・マルチ・セマティック・エクイティ・ファンド（以下「ファンド・シリーズ45」という。）（2020年10月30日に設定）
- － 米国エクイティ・イントラデイ・モメンタム・ファンド（以下「ファンド・シリーズ46」という。）（2020年12月15日に設定）
- － CGMYLインデックス・ターゲット・ボラティリティ・ファンド2012（SP）（以下「CGMYL」という。）
- － トルコ債券オープン（毎月決算型）為替アクティブヘッジ（以下「KAM」という。）

(ii) 当社は、当社の管理下にある以下のファンドから、報酬を受け取る権利を有している。

受取投資運用/助言報酬

ファンド・シリーズ14、18、19、20、25、26、27、28、30、31、32、33、34、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、CGMYLおよびKAMの受取投資運用報酬は、ファンドの純資産価額の年率0.01%から1.8%で計算される。

(iii) 当社とシリーズ19、39および45のサブ・マネージャーとの間で締結されたサブ・マネジメント契約に従い、支払サブ・マネージャー報酬が、受取管理報酬総額のそれぞれ50%、55%および55%で算定され、サブ・マネージャーに支払われる。2020年12月31日現在においてシリーズ19、39および45のサブ・マネージャーに支払われた支払サブ・マネージャー報酬総額は、6,967,624香港ドル（2019年:1,900,215香港ドル）であった。

(b) 支払管理報酬

当社は、当社に付帯的な販売サポート・サービスを提供している兄弟会社に管理報酬を支払った。2020年12月31日に終了した報告期間における支払管理報酬は、6,456,764香港ドル（2019年：4,666,331香港ドル）であった。

(c) 経営幹部の報酬

注記5に開示されている取締役の報酬以外に、他の経営幹部の報酬はない。

	2020年 香港ドル	2019年 香港ドル
経営幹部の報酬	19,733,029	18,844,509

特定の経営幹部に対する報酬の開示金額が、当社のグループ会社によって支払われた。当社は、経営幹部の役務の提供についてグループ会社を直接補償しなかった。

11 金融商品

信用リスク、流動性リスクおよび金利リスクならびに為替リスクに対するエクスポージャーは、当社の通常の営業過程において生じる。これらのリスクは、下記の当社の財務管理方針および施策によって管理されている。

(a) 信用リスク

当社の信用リスクは、主に兄弟会社の銀行に保有されている現金および現金同等物、当社の投資運用活動により生じる未収報酬に起因する。経営陣は、信用方針を整備しており、信用リスクのエクスポージャーを継続的にモニターしている。

未収運用報酬は定期的に見直され、定期的なスケジュールで決済される。兄弟会社に対する債権については、経営陣は、グループ会社に預け入れている金融資産の不履行リスクは僅少であると考えている。

信用リスクの最大エクスポージャーは、報告期間の期末時点の当該金融資産の帳簿価額に相当する。

(b) 流動性リスク

当社の流動性リスク管理プロセスは、連結親会社およびブローカー・ディーラーの流動性および資金調達プロセスならびに流動性監視フレームワークに統合されている。シティグループの方針では、連結親会社およびブローカー・ディーラー（当社が事業を行っている会社）は、強固な流動性ポジションを維持し、予想および予想外の現在および将来のキャッシュ・フローと担保のニーズの両方を満たすのに十分なキャッシュ・フローを確保する必要がある。

2020年12月31日および2019年12月31日現在、すべての金融負債は1年以内に満期が到来するか、または、要求に応じて返済される。金融負債の最も早い契約上の決済日の詳細は、注記8に開示されている。

(c) 金利リスク

当社は、2020年に定期預金を保有しておらず、現金および現金同等物に係る銀行利息を得る範囲での金利リスクに対するエクスポージャーは重要ではない。当社は、2019年に当社が現金および現金同等物に係る銀行利息を得る範囲でのみ、金利リスクにさらされていた。

感応度分析

以下の表は、報告期間の期末時点で、他のすべてのリスク変数を一定と仮定した場合の金利の変動の見積りに対応する当社の税引前利益の変動の見積りを表している。

	2020年		2019年	
	税引前利益の 増加／（減少） 香港ドル		税引前利益の 増加／（減少） 香港ドル	
金利の変動				
－増加	－	－	－	－
－減少	－	－	(0.33)%	(831,600)

上記の感応度分析は、報告期間の期末時点で金利の変動が生じており、かつ、報告期間の期末時点で金利リスクのある当社保有の金融商品の再測定に当該金利を適用したと仮定した場合に生じると考えられる、当社の税引前利益に対する通年計算による影響額を表している。

(d) 為替リスク

為替リスクは、為替レートの変動が金融商品の価値に影響を与える可能性によって生じる。

為替リスクのエクスポージャーを最小化するため、経営陣は、相殺が必要な外貨を直物レートで売買することにより正味エクスポージャーが許容水準に保たれることを確認している。

(i) 為替リスクに対するエクスポージャー

当社の機能通貨以外の通貨建である資産および負債の認識額から生じた為替リスクに対する、当社の報告期間の期末時点のエクスポージャーの詳細は以下の表の通りである。

	2020年			2019年		
	豪ドル建 香港ドル相当	日本円建 香港ドル相当	米ドル建 香港ドル相当	豪ドル建 香港ドル相当	日本円建 香港ドル相当	米ドル建 香港ドル相当
現金および 現金同等物	3,609	727,218	7,932,630	2,989	627,403	4,228,327
売掛金および その他の資産	－	4,356,006	2,008,536	－	12,878,693	3,612,104
買掛金および 未払費用	－	(5,970,427)	(9,507,160)	－	(4,605,786)	(2,020,756)
正味エク スポージャー	3,609	(887,203)	434,006	2,989	8,900,310	5,819,675

香港ドルは米ドルに対するペッグ制が施行されているため、当社は米ドルと香港ドルの為替レート変動のリスクは重要ではないと考えている。

(ii) 感応度分析

以下の表は、他のすべてのリスク変数を一定と仮定した場合に、報告期間の期末時点で当社が多額のエクスポージャーを有している為替レートが同日に変更された場合に生じると考えられる当社の税引前利益の瞬間的な変動を表している。

	2020年		2019年	
	為替レートの上昇／（下落）	税引前利益の増加／（減少） 香港ドル	為替レートの上昇／（下落）	税引前利益の増加／（減少） 香港ドル
豪ドル	5.13%	185	—	—
	—	—	(4.35)%	(130)
日本円	5.26%	(46,627)	5.77%	513,516
	—	—	—	—

感応度分析では、為替レートの変動が、報告期間の期末時点で為替リスクのある当社保有の金融商品の再測定に適用されたと仮定し、機能通貨以外の通貨建である内部取引による債権債務を含めている。感応度分析は、2019年と同じ基準で実施されている。

(e) 金融資産および負債の公正価値

金融資産および負債の公正価値は、2020年12月31日および2019年12月31日現在の財政状態計算書の帳簿価額と大きな相違はないと考えられる。

12 直接の親会社および最終的な支配会社

2020年12月31日現在、取締役会は、当社の直接の親会社は、香港で設立されたシティグループ・グローバル・マーケッツ・ホンコン・ホールディングス・リミテッドであるとみなしている。同社は財務書類を作成しているが、公衆の閲覧に供されていない。2020年12月31日現在の当社の最終的な支配会社は、米国で設立されたシティグループ・インクであるとみなされる。シティグループ・インクは米国で一般に認められる会計原則に基づき連結財務書類を作成しており、公衆の閲覧に供されている。

13 公表されているが2020年12月31日に終了した事業年度において未発効の修正、新基準および解釈指針の潜在的影響

本財務書類の公表日までに、HK I C P Aは2020年12月31日に終了した事業年度において未発効で、本財務書類に適用されていない、多くの修正および新基準、HK F R S第17号「保険契約」を公表した。本変更には、当社に関連する可能性がある以下が含まれている。

以下の日付以降に開始する
会計期間より適用

HK F R S第9号、HK A S第39号、HK F R S第7号、HK F R S第4号およびHK F R S第16号の修正「金利指標改革—フェーズ2」

2021年1月1日

HKFRS第3号の修正「概念フレームワークへの参照」	2022年1月1日
HKAS第16号の修正「有形固定資産：意図された使用の前に発生する利益」	2022年1月1日
HKAS第37号の修正「不利な契約－契約の履行のコスト」	2022年1月1日
HKFRSの年次改善2018年－2020年サイクル	2022年1月1日
HKAS第1号の修正「負債の流動または非流動への分類」	2023年1月1日

当社は、これらの修正が初度適用の期間に及ぼす影響について評価中である。これまでのところ、これらの修正の適用が本財務書類に重要な影響を及ぼす可能性は低いと考えている。

[次へ](#)

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

Statement of profit or loss and other comprehensive income for the year ended 31 December 2020

(Expressed in Hong Kong dollars)

	<i>Note</i>	<i>2020</i> \$	<i>2019</i> \$
Turnover	2	40,012,764	39,835,244
Interest income		839,852	2,992,020
Foreign exchange (loss)/gain		(126,878)	135,570
Other operating expenses		(24,019,968)	(20,048,154)
Profit before taxation	3	16,705,770	22,914,680
Income tax	4(a)	(2,621,364)	(3,244,882)
Profit for the year		14,084,406	19,669,798
Other comprehensive income for the year		-	-
Total comprehensive income for the year		14,084,406	19,669,798

The notes on pages 11 to 30 form part of these financial statements.

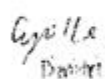
Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

Statement of financial position as at 31 December 2020

(Expressed in Hong Kong dollars)

	Note	2020 \$	2019 \$
Non-current asset			
Deferred tax assets	4(c)	<u>17,202</u>	<u>19,753</u>
Current assets			
Accounts receivable and others assets	7	6,375,325	9,949,200
Tax receivable	4(c)	623,061	-
Cash and cash equivalents	6	<u>281,524,689</u>	<u>257,483,338</u>
		<u>288,523,075</u>	<u>267,432,538</u>
Current liabilities			
Accounts payable and accrued expenses	8	18,587,209	7,921,181
Tax payables	4(c)	-	3,662,448
		<u>18,587,209</u>	<u>11,583,629</u>
Net current assets		<u>269,935,866</u>	<u>255,848,909</u>
NET ASSETS		<u>269,953,068</u>	<u>255,868,662</u>
CAPITAL AND RESERVES			
Share capital	9(a)	2,000,200	2,000,200
Retained earnings		<u>267,952,868</u>	<u>253,868,462</u>
TOTAL EQUITY		<u>269,953,068</u>	<u>255,868,662</u>

Approved and authorised for issue by the board of directors on **28 APR 2021**


 Gyeille
 Director
 Financial Controller


 Song Li
 Directors

The notes on pages 11 to 30 form part of these financial statements.

Citygroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

Statement of changes in equity
for the year ended 31 December 2020
(Expressed in Hong Kong dollars)

	<i>Share capital \$</i>	<i>Retained earnings \$</i>	<i>Total \$</i>
Balance at 1 January 2019	2,000,200	234,198,664	236,198,864
Total comprehensive income for the year	-	19,669,798	19,669,798
Balance at 31 December 2019	2,000,200	253,868,462	255,868,662
Balance at 1 January 2020	2,000,200	253,868,462	255,868,662
Total comprehensive income for the year	-	14,084,406	14,084,406
Balance at 31 December 2020	2,000,200	267,952,868	269,953,068

The notes on pages 11 to 30 form part of these financial statements.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

Statement of cash flows
for the year ended 31 December 2020
(Expressed in Hong Kong dollars)

	<i>Note</i>	2020 \$	2019 \$
Operating activities			
Profit before taxation		16,705,770	22,914,680
Adjustment for:			
Interest income		(839,852)	(2,992,020)
Operating cashflow before changes in working capital		15,865,918	19,922,660
Decrease/(increase) in accounts receivable and other assets		3,573,875	(2,450,828)
Increase/(decrease) in accounts payable and accrued expenses		10,666,028	(15,804,301)
Net cash generated from operations		30,105,821	1,667,531
Hong Kong profits tax paid		(6,904,322)	(460,512)
Net cash generated from operating activities		23,201,499	1,207,019
Investing activity			
Interest received		839,852	2,992,020
Net cash generated from investing activity		839,852	2,992,020
Net increase in cash and cash equivalents		24,041,351	4,199,039
Cash and cash equivalents at 1 January		257,483,338	253,284,299
Cash and cash equivalents at 31 December	6	281,524,689	257,483,338

The notes on pages 11 to 30 form part of these financial statements.

Notes to the financial statements

(Expressed in Hong Kong dollars)

1 Significant accounting policies

(a) Statement of compliance

These financial statements have been prepared in accordance with all applicable Hong Kong Financial Reporting Standards ("HKFRSs"), which collective term includes all applicable individual Hong Kong Financial Reporting Standards, Hong Kong Accounting Standards ("HKASs") and Interpretations issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants ("HKICPA"), accounting principles generally accepted in Hong Kong and the requirements of the Hong Kong Companies Ordinance. Significant accounting policies adopted by the Company are disclosed below.

The HKICPA has issued certain amendments to HKFRSs that are first effective or available for early adoption for the current accounting period of the Company. Note 1(c) provides information on any changes in accounting policies resulting from initial application of these developments to the extent that they are relevant to the Company for the current and prior accounting periods reflected in these financial statements.

(b) Basis of preparation of the financial statements

The measurement basis used in the preparation of the financial statements is the historical cost basis.

The Company has chosen Hong Kong dollars as its functional currency which reflects the economic substance of the underlying assets and circumstances relevant to the Company. All values are rounded to the nearest Hong Kong dollar, unless otherwise indicated.

The preparation of financial statements in conformity with HKFRSs requires management to make judgements, estimates and assumptions that affect the application of policies and reported amounts of assets, liabilities, income and expenses. The estimates and associated assumptions are based on historical experience and various other factors that are believed to be reasonable under the circumstances, the results of which form the basis of making the judgements about carrying values of assets and liabilities that are not readily apparent from other sources. Actual results may differ from these estimates.

The estimates and underlying assumptions are reviewed on an ongoing basis. Revisions to accounting estimates are recognised in the period in which the estimate is revised if the revision affects only that period, or in the period of the revision and future periods if the revision affects both current and future periods.

1 Significant accounting policies (continued)**(c) Changes in accounting policies**

A number of new standards are effective from 1 January 2020 but they do not have a material effect on the Company's financial statements.

(d) Change in presentation of statement of financial position

In prior years, Amounts due from/to affiliated companies were presented separately under Current assets and Current liabilities. From 2020 onwards, such receivable and payable have been consolidated into Accounts receivable and other assets as well as Accrued charges and other payables. The comparative figures have been restated to conform with the revised presentation.

(e) Cash and cash equivalents

Cash and cash equivalents comprise cash at bank and on hand, demand deposits with banks and other financial institutions, and short-term, highly liquid investments that are readily convertible into known amounts of cash and which are subject to an insignificant risk of changes in value, having been within three months of maturity at acquisition.

(f) Revenue and other income

Income is classified by the Company as revenue when it arises from the trading activities, the provision of services in the ordinary course of the Company's business.

Revenue is recognised when control over a product or service is transferred to the customer, or the lessee has the right to use the asset, at the amount of promised consideration to which the Company is expected to be entitled, excluding those amounts collected on behalf of third parties.

Where the contract contains a financing component which provides a significant financing benefit to the customer for more than 12 months, revenue is measured at the present value of the amount receivable, discounted using the discount rate that would be reflected in a separate financing transaction with the customer, and interest income is accrued separately under the effective interest method. Where the contract contains a financing component which provides a significant financing benefit to the Company, revenue recognised under that contract includes the interest expense accreted on the contract liability under the effective interest method. The Company takes advantage of the practical expedient in paragraph 63 of HKFRS 15 and does not adjust the consideration for any effects of a significant financing component if the period of financing is 12 months or less.

Further details of the Company's revenue and other income recognition policies are as follows:

- Fee income is recognised when the relevant services have been rendered.
- Interest income is recognised as it accrues using the effective interest method.

1 Significant accounting policies (continued)**(g) Provisions and contingent liabilities**

Provisions are recognised when the Company has a legal or constructive obligation arising as a result of a past event, it is probable that an outflow of economic benefits will be required to settle the obligation and a reliable estimate can be made. Where the time value of money is material, provisions are stated at the present value of the expenditure expected to settle the obligation.

Where it is not probable that an outflow of economic benefits will be required, or the amount cannot be estimated reliably, the obligation is disclosed as a contingent liability, unless the probability of outflow of economic benefits is remote. Possible obligations, whose existence will only be confirmed by the occurrence or non-occurrence of one or more future events, are also disclosed as contingent liabilities unless the probability of outflow of economic benefits is remote.

(h) Accounts and other receivables

Accounts and other receivables are initially recognised at fair value and thereafter stated at amortised cost using the effective interest method, less allowance for credit losses (see note 1(l)(v)), except where the receivables are interest-free loans made to related parties without any fixed repayment terms or the effect of discounting would be immaterial. In such cases, the receivables are stated at cost less allowance for impairment of doubtful debts.

Impairment losses for bad and doubtful debts are recognised when there is objective evidence of impairment and are measured as the difference between the carrying amount of the financial asset and the estimated future cash flows, discounted at the asset's original effective interest rate where the effect of discounting is material.

Objective evidence of impairment includes observable data that comes to the attention of the Company about events that have an impact on the asset's estimated future cash flows such as significant financial difficulty of the debtor.

(i) Translation of foreign currencies

Foreign currency transactions during the year are translated into Hong Kong dollars at the foreign exchange rates ruling at the transaction dates. Monetary assets and liabilities denominated in foreign currencies are translated into Hong Kong dollars at the exchange rates ruling at the end of reporting period. Exchange gains and losses are recognised in statement of profit or loss and other comprehensive income.

1 Significant accounting policies (continued)

(j) *Income tax*

Income tax for the year comprises current tax and movements in deferred tax assets and liabilities. Current tax and movements in deferred tax assets are recognised in the statement of profit or loss except to the extent that they relate to items recognised in other comprehensive income or directly in equity, in which case the relevant amounts of tax are recognised in other comprehensive income or directly in equity, respectively.

Current tax is the expected tax payable on the taxable income for the year, using tax rates enacted or substantively enacted at the end of the reporting period, and any adjustment to tax payable in respect of previous years.

Deferred tax assets arise from deductible temporary differences, being the differences between the carrying amounts of assets and liabilities for financial reporting purposes and the tax bases. Deferred tax assets also arise from unused tax losses and unused tax credits. Apart from differences which arise on initial recognition of assets and liabilities, all deferred tax assets to the extent that it is probable that future taxable profits will be available against which the asset can be utilised, are recognised.

The amount of deferred tax recognised is measured based on the expected manner of realisation or settlement of the carrying amount of the assets and liabilities, using tax rates enacted or substantively enacted at the end of reporting period. Deferred tax assets and liabilities are not discounted.

Current tax balances and deferred tax balances, and movements therein, are presented separately from each other and are not offset. Current tax assets are offset against current tax liabilities, and deferred tax assets against deferred tax liabilities if, and only if, the Company has the legally enforceable right to set off current tax assets against current tax liabilities. The principle of offsetting usually applies to income tax levied by the same tax authority on the same taxable entity.

(k) *Related parties*

- (a) A person, or a close member of that person's family, is related to the Company if that person:
 - (i) has control or joint control over the Company;
 - (ii) has significant influence over the Company; or
 - (iii) is a member of the key management personnel of the Company or the Company's parent.

1 Significant accounting policies (continued)

- (b) An entity is related to the Company if any of the following conditions applies:
- (i) The entity and the Company are members of the same group (which means that each parent, subsidiary and fellow subsidiary is related to the others).
 - (ii) One entity is an associate or joint venture of the other entity (or an associate or joint venture of a member of a group of which the other entity is a member).
 - (iii) Both entities are joint ventures of the same third party.
 - (iv) One entity is a joint venture of a third entity and the other entity is an associate of the third entity.
 - (v) The entity is a post-employment benefit plan for the benefit of employees of either the Company or an entity related to the Company.
 - (vi) The entity is controlled or jointly controlled by a person identified in (a).
 - (vii) A person identified in (a)(i) has significant influence over the entity or is a member of the key management personnel of the entity (or of a parent of the entity).
 - (viii) The entity, or any member of a group of which it is a part, provides key management personnel services to the Company or to the Company's parent.

Close members of the family of a person are those family members who may be expected to influence, or be influenced by, that person in their dealings with the entity.

(f) Financial instruments**(i) Initial recognition**

Financial instruments are measured initially at fair value, which normally will be equal to the transaction price, plus, in case of a financial asset or financial liability not held at fair value through profit or loss, transaction costs that are directly attributable to the acquisition or issue of the financial asset or financial liability.

The Company recognises financial assets and financial liabilities on the date it becomes a party to the contractual provisions of the instrument. A regular way purchase or sale of financial assets is recognised using trade date accounting. From this date, any gains and losses arising from changes in fair value of the financial assets or financial liabilities are recorded.

1 Significant accounting policies (continued)

(ii) Classification and subsequent measurement

(A) Classification of financial assets

On initial recognition, the Company classifies financial assets as measured at amortised cost or FVTPL.

A financial asset is measured at amortised cost if it meets both of the following conditions and is not designated as at FVTPL.

- it is held within a business model whose objective is to hold assets to collect contractual cash flows; and
- its contractual terms give rise on specified dates to cash flows that are solely payments of principal and interest ("SPPI")

All other financial assets of the Company are measured at FVTPL.

Business model assessment

In making an assessment of the objective of the business model in which a financial asset is held, the Company considers all of the relevant information about how the business is managed, including:

- the documented investment strategy and the execution of this strategy in practice. This includes whether the investment strategy focuses on earning contractual interest income, maintaining a particular interest rate profile, matching the duration of the financial assets to the duration of any related liabilities or expected cash outflows or realising cash flows through the sale of the assets;
- how the performance of the portfolio is evaluated and reported to the Company's management;
- the risks that affect the performance of the business model (and the financial assets held within that business model) and how those risks are managed;
- how the managers of the business are compensated: e.g. whether compensation is based on the fair value of the assets managed or the contractual cash flows collected; and
- the frequency, volume and timing of sales of financial assets in prior periods, the reasons for such sales and expectations about future sales activity

Financial assets that are held for trading or managed and whose performance is evaluated on a fair value basis are measured at FVTPL because they are neither held to collect contractual cash flows nor held both to collect contractual cash flows and to sell financial assets.

1 Significant accounting policies (continued)*Assessment whether contractual cash flows are SPPI*

For the purposes of this assessment, 'principal' is defined as the fair value of the financial asset on initial recognition. 'Interest' is defined as consideration for the time value of money and for the credit risk associated with the principal amount outstanding during a particular period of time and for other basic lending risks and costs (e.g. liquidity risk and administrative costs), as well as a profit margin.

In assessing whether the contractual cash flows are SPPI, the Company considers the contractual terms of the instrument. This includes assessing whether the financial asset contains a contractual term that could change the timing or amount of contractual cash flows such that it would not meet this condition. In making this assessment, the Company considers:

- contingent events that would change the amount or timing of cash flows;
- leverage features;
- prepayment and extension features;
- terms that limit the Company's claim to cash flows from specified assets (e.g. non-recourse features); and
- features that modify consideration of the time value of money (e.g. periodical reset of interest rates)

Reclassifications

Financial assets are not reclassified subsequent to their initial recognition, except in the period after the Company changes its business model for managing financial assets.

(B) Classification of financial assets*Loans and receivables*

Loans and receivables include amounts due from fellow subsidiaries, accounts receivable and other assets and cash and cash equivalents. These assets are measured at amortised cost using the effective interest method.

Other financial liabilities

Financial liabilities includes amount due to fellow subsidiaries and accounts payable and accrued expenses. These liabilities are measured at amortised cost using the effective interest method.

(iii) Derecognition

A financial asset is derecognised when the contractual rights to receive the cash flows from the financial asset expire, or where the financial asset together with substantially all the risks and rewards of ownership, have been transferred.

1 Significant accounting policies (continued)

A financial liability is derecognised when the obligation specified in the contract is discharged, cancelled or expires.

The Company uses the weighted average method to determine realised gains and losses to be recognised in the statement of profit or loss and other comprehensive income on derecognition.

(iv) Offsetting

Financial assets and financial liabilities are offset and the net amount is reported in the statement of financial position where there is a legally enforceable right to offset the recognised amounts and there is an intention to settle on a net basis, or realise the asset and settle the liability simultaneously.

(v) Impairment

The Company recognises loss allowances for ECLs on financial assets measured at amortised cost.

The Company measures loss allowances at an amount equal to lifetime ECLs, except for the following, which are measured at 12-month ECLs:

- financial assets that are determined to have low credit risk at the reporting date; and
- other financial assets for which credit risk (i.e. the risk of default occurring over the expected life of the asset) has not increased significantly since initial recognition

The Company assumes that the credit risk on a financial asset has increased significantly if it is more than 30 days past due.

The Company considers a financial instrument to have low credit risk when its credit risk rating is equivalent to the globally understood definition of 'investment grade'.

Lifetime ECLs are the ECLs that result from all possible default events over the expected life of a financial instrument.

12-month ECLs are the portion of ECLs that result from default events that are possible within the 12 months after the reporting date (or a shorter period if the expected life of the instrument is less than 12 months).

The maximum period considered when estimating ECLs is the maximum contractual period over which the Company is exposed to credit risk.

Measurement of ECLs

ECLs are the probability-weighted estimate of credit losses. Credit losses are measured as the present value of all cash shortfalls (i.e. the difference between the cash flows due to the entity in accordance with the contract and the cash flows that the Company expects to receive).

ECLs are discounted at the effective interest rate of the financial asset.

1 Significant accounting policies (continued)*Credit-impaired financial assets*

At each reporting date, the Company assesses whether financial assets carried at amortised cost are credit-impaired. A financial asset is 'credit-impaired' when one or more events that have a detrimental impact on the estimated future cash flows of the financial asset have occurred.

Evidence that a financial asset is credit-impaired includes the following observable data:

- significant financial difficulty of the borrower or issuer;
- a breach of contract such as a default or being more than 90 days past due; or
- it is probable that the borrower will enter bankruptcy or other financial reorganisation

Presentation of allowance for ECLs in the statement of financial position

Loss allowances for financial assets measured at amortised cost are deducted from the gross carrying amount of the assets.

Write-off

The gross carrying amount of a financial asset is written off when the Company has no reasonable expectations of recovering a financial asset in its entirety or a portion thereof.

2 Turnover

The principal activity of the Company is the provision of investment management services.

	2020 \$	2019 \$
Investment management fee income	40,012,764	39,835,244
	<u>40,012,764</u>	<u>39,835,244</u>

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

3 Profit before taxation

Profit before taxation is arrived at after charging:

	2020 \$	2019 \$
Management fee expenses	6,456,764	4,666,331
Sub-manager fee expenses	8,107,596	4,078,536
Legal and professional fee	7,988,111	10,742,855
Auditors' remuneration	468,286	468,286
Custody expenses	332,108	-
Printing expenses	190,903	-
Others	476,200	92,146
	<u> </u>	<u> </u>

4 Income tax

(a) *Income tax in the statement of profit or loss and other comprehensive income represents:*

Taxation in the statement of profit or loss and other comprehensive income represents:

	2020 \$	2019 \$
Current tax - Hong Kong Profits Tax		
Over-provision in respect of the prior year	(20,001)	(19,989)
Provision for Hong Kong Profits Tax for the year	2,638,814	3,261,875
Deferred tax		
Origination and reversal of temporary differences	2,551	2,996
	<u>2,621,364</u>	<u>3,244,882</u>

The provision for Hong Kong Profits Tax for the year is calculated at 16.5% (2019: 16.5%) of the estimated assessable profits.

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

4 Income tax (continued)

(b) *Reconciliation between income tax and accounting profit at applicable tax rates:*

	2020	2019
Profit before taxation	<u>16,705,770</u>	<u>22,914,680</u>
Notional tax on profit before taxation at 16.5% (2019: 16.5%)	2,756,452	3,780,923
Tax effect of non-taxable income and non-deductible loss	(115,087)	(516,052)
Over-provision in respect of prior year	<u>(20,001)</u>	<u>(19,989)</u>
Actual tax expense	<u>2,621,364</u>	<u>3,244,882</u>

(c) *Income tax in the statement of financial position represents:*

(Tax receivable)/Current taxation in the statement of financial position represents:

	Note	2020 \$	2019 \$
Current taxation bought forward		3,662,448	881,075
Profits Tax Paid		(6,904,322)	(460,513)
Balance of Profits Tax provision relating to prior years		(20,001)	(19,989)
Provision for Hong Kong Profits Tax for the year	4(a)	<u>2,638,814</u>	<u>3,261,875</u>
		<u>(623,061)</u>	<u>3,662,448</u>

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

4 Income tax (continued)

Deferred tax assets recognised:

The components of deferred tax assets recognised in the statement of financial position and the movements during the year are as follows:

	<i>Depreciation in excess of the related depreciation allowances</i>	<i>Total</i>
	\$	\$
At 1 January 2019	22,749	22,749
Charged to statement of profit or loss and other comprehensive income	(2,996)	(2,996)
At 31 December 2019	19,753	19,753
At 1 January 2020	19,753	19,753
Charged to statement of profit or loss and other comprehensive income	(2,551)	(2,996)
At 31 December 2020	17,202	19,753

As at 31 December 2020, there is no significant deferred tax asset or liability not recognised or provided for (2019: \$Nil).

5 Directors' emoluments

Directors' emoluments disclosed pursuant to section 383(1) of the Hong Kong Companies Ordinance and Part 2 of the Companies (Disclosure of Information about Benefits of Directors) Regulations are as follows:

	2020	2019
	\$	\$
Directors' fees	-	-
Salaries, allowances and benefits in kind	7,478,000	7,478,000
Discretionary bonuses	9,277,210	8,494,866
Share based payments	2,227,319	2,131,543
Retirement scheme contributions	750,500	740,100
	19,733,029	18,844,509

Citigroup First Investment Management Limited
Financial statements for the year ended 31 December 2020

6 Cash and cash equivalents

	2020 \$	2019 \$
Cash at bank	281,524,689	257,483,338

7 Accounts receivable and other assets

	2020 \$	2019 \$
Investment management fee receivable	6,008,164	5,444,468
Legal and professional fee receivable	236,399	3,731,358
Others	130,762	773,374
	<u>6,375,325</u>	<u>9,949,200</u>

All of the above fee receivables are due from funds managed by the Company. All the fee receivables are interest free, unsecured and expected to be settled within three months.

8 Accounts payable and accrued expenses

	2020 \$	2019 \$
Sub-manager fee payable	-	580,425
Legal and professional fee payable	4,884,580	4,840,130
Audit fee	460,648	460,648
Other payable	13,241,981	2,039,978
	<u>18,587,209</u>	<u>7,921,181</u>

Included in sub-manager fee payable is an amount due to a fellow subsidiary of \$Nil (2019: \$580,425). All accounts payable and accrued charges are interest free, unsecured and expected to be settled within three months.

9 Share capital**(a) Issued share capital**

	2020		2019	
	No. of shares	Amount \$	No. of shares	Amount \$
Ordinary shares, issued and fully paid:				
At 1 January and 31 December	20,002	2,000,200	20,002	2,000,200

In accordance with section 135 of the Hong Kong Companies Ordinance, the ordinary shares of the Company do not have a par value.

The holders of ordinary shares are entitled to receive dividends as declared from time to time and are entitled to one vote per share at meetings of the Company. All ordinary shares rank equally with regard to the Company's residual assets.

(b) Capital management

The Company's primary objective when managing capital is to safeguard the Company's ability to continue as a going concern. As the Company is part of a larger group, the Company's sources of additional capital and policies for distribution of excess capital may also be affected by the group's capital management objectives.

The Company defines "capital" as including all components of equity. On this basis the amount of capital employed at 31 December 2020 was \$269,953,068 (2019: \$255,868,662).

The Company's capital structure is regularly reviewed and managed with due regard to the capital management practices of the group to which the Company belongs. Adjustments are made to the capital structure in light of changes in economic conditions affecting the Company or the group, to the extent that these do not conflict with the directors' fiduciary duties towards the Company or the requirements of the Hong Kong Companies Ordinance.

The results of the directors' review of the Company's capital structure are used as a basis for the determination of the level of dividends, if any, that are declared.

As a licensed corporation registered under the Hong Kong Securities and Futures Ordinance, the Company is also subject to the capital requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Financial Resources) Rules ("FRR"). The minimum liquid capital requirement is the higher of \$100,000 and the variable required liquid capital as defined in the FRR. The Company monitors its compliance with the requirements of the FRR on a daily basis. The Company complied with the requirements of the FRR at all times during the year.

10 Material related party transactions

In addition to those disclosed elsewhere in the financial statements, the Company had transactions in the normal course of business with related parties as follows:

(a) Fee income and expenses

	Note	2020 \$	2019 \$
Fee income			
Investment management fee income	(ii)	40,012,764	39,835,244
Fee expenses			
Sub-manager fee expenses	(iii)	<u>6,967,624</u>	<u>1,900,215</u>

(i) The Company is the fund manager of the following funds during the year:

- Hybrid Tri-Asset Fund (JPY) ("Fund Series 14") (Terminated on 6 Oct 2020)
- Asia High Yield Bond Fund ("Fund Series 18")
- Mexico Bond Fund ("Fund Series 19")
- Templeton Global Bond Fund Foreign Currency Series ("Fund Series 20")
- Global Balance Plus Fund ("Fund Series 25")
- North American Equity Income Covered Call Strategy Fund ("Fund Series 26") (Terminated on 5 Jun 2020)
- US Focused Growth Equity Foreign Currency Series ("Fund Series 27")
- Treasury Premium Plus Fund ("Fund Series 28")
- Fixed Income Fund ("Fund Series 30")
- Treasury Premium Plus II Fund ("Fund Series 31")
- USD Denominated Target Setting at Maturity Fund 1703 ("Fund Series 32")
- JPN High Dividend Equity with Short Index Allocation ("Fund Series 33")

10 Material related party transactions (continued)

- USD Denominated Target Setting at Maturity Fund 1710 ("Fund Series 34")
- JGB Asset Swap Fund ("Fund Series 36")
- Nikkei 225 Intraday Fund ("Fund Series 37")
- Target Setting at Maturity Fund 1802 ("Fund Series 38")
- China Hong Kong Equity Opportunities Fund ("Fund Series 39")
- Target Setting at Maturity Fund 1809 ("Fund Series 40")
- Multi Asset Systematic Strategies Fund ("Fund Series 41") (Launched on 15 Oct 2020)
- Target Setting At Maturity Fund 1903 ("Fund Series 42")
- Flexibeta Fund (VT5 Defensive and VT10 Active) ("Fund Series 43")
- USD Denominated Citigroup Note, Return Referring the High Watermark of Global Multi Asset Strategy Fund ("Fund Series 44") (Launched on 21 Jan 2020)
- Global Multi-Thematic Equity Fund ("Fund Series 45") (Launched on 30 Oct 2020)
- US Equity Intraday Momentum Fund ("Fund Series 46") (Launched on 15 Dec 2020)
- CGMYL Index Target Volatility Fund 2012 (SP) ("CGMYL")
- Kokusai Turkish Bond Open (1M) Active Currency Hedge ("KAM")

(ii) The Company is entitled to fee income from the following funds under its management:*Investment management/advisory fee income*

For Fund Series 14, 18, 19, 20, 25, 26, 27, 28, 30, 31, 32, 33, 34, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, CGMYL and KAM, fees are calculated at 0.01% to 1.8% per annum of the net asset value of the funds.

(iii) Pursuant to the sub-management agreement signed between the Company and the sub-managers for Series 19, 39 and 45, the sub-managers' fee expenses are payable to the sub-managers calculated at 50%, 55% and 55% respectively of the gross management fee income received. The total sub-managers' fee expenses paid to the sub-managers for Series 19, 39 and 45 as at 31 December 2020 amounted to \$6,967,624 (2019: \$1,900,215).

10 Material related party transactions (continued)**(b) Management fee expenses**

The Company paid management fee expenses to fellow subsidiaries, which provided ancillary sale support services to the Company. The management fee expense for the reporting period as at 31 December 2020 amounted to \$6,456,764 (2019: \$4,666,331).

(c) Key management personnel emoluments

Besides the directors' emoluments disclosed in note 5, there were no other key management personnel emoluments.

	2020 \$	2019 \$
Key management personnel emoluments	19,733,029	18,844,509

Amounts disclosed emoluments to certain key management personnel were paid by group companies of the Company. The Company did not directly reimburse the group companies for the service provided.

11 Financial instruments

Exposure to credit, liquidity and interest rate risks and foreign currency risk arise in the normal course of the Company's business. These risks are managed by the Company's financial management policies and practices described below.

(a) Credit risk

The Company's credit risk is primarily attributable to cash and cash equivalents held at a fellow subsidiary bank and outstanding fees receivable arising from the Company's investment management activities. Management has a credit policy in place and exposure to credit risks is monitored on an ongoing basis.

Management fee receivables are regularly reviewed and settled on a regular schedule. For the balance due from fellow subsidiaries, management considers the default risk of the financial assets placed with the group companies to be remote.

The maximum exposure to credit risk is equal to the carrying amount of these financial assets as of the end of the reporting period.

11 Financial instruments (continued)**(b) Liquidity risk**

The Company's liquidity risk management process is integrated into the Consolidated Parent Company and Broker Dealer liquidity and funding process and liquidity monitoring framework. Citigroup policy requires Consolidated Parent Company and Broker Dealer (which the Company operating within) to maintain a strong liquidity position and ensure sufficient cash flows to meet both expected and unexpected current and future cash flow and collateral needs.

At 31 December 2020 and 31 December 2019, all financial liabilities mature within one year or are repayable on demand. Details of the earliest contractual settlement dates of the financial liabilities are disclosed in notes 8.

(c) Interest rate risk

The Company does not have any fixed deposits in 2020 which the exposure to interest rate risk to the extent that it earns bank interest on cash and cash equivalents is insignificant. The Company was exposed to interest rate risk only to the extent that it earns bank interest on cash and cash equivalents in 2019.

Sensitivity analysis

The following table indicates the estimated changes in the Company's profit before tax in response to estimated changes in interest rate with all other variables held constant at the end of the reporting period.

	2020		2019	
	%	Profit before tax increase/ (decrease) \$	%	Profit before tax increase/ (decrease) \$
Changes in interest rate				
- Increase	-	-	-	-
- Decrease	-	-	(0.33)	(831,600)

The sensitivity analysis above indicates the annualised impact on the Company's profit before tax that would arise assuming that the change in interest rates had occurred at the end of the reporting period and had been applied to re-measure those financial instruments held by the Company which expose the Company to interest rate risk at the end of reporting period.

(d) Currency risk

Currency risk arises from the possibility that changes in foreign exchange rate will impact the value of financial instruments.

To minimise the exposures to foreign currency risk, management ensures that the net exposure is kept at an acceptable level by buying or selling foreign currencies at spot rates where necessary to cover the foreign currencies.

11 Financial instruments (continued)**(i) Exposure to currency risk**

The following table details the Company's exposure at the end of the reporting period to currency risk arising from recognised assets or liabilities denominated in currencies other than the functional currency of the Company to which they relate.

	2020			2019		
	Australian Dollars HKD equivalent	Japanese Yen HKD equivalent	US Dollars HKD equivalent	Australian Dollars HKD equivalent	Japanese Yen HKD equivalent	US Dollars HKD equivalent
Cash and cash equivalents	3,609	727,218	7,932,630	2,989	627,403	4,228,327
Accounts receivable and other assets	-	4,356,006	2,008,536	-	12,878,693	3,612,104
Accounts payable and accrued expenses	-	(5,970,427)	(9,507,160)	-	(4,605,786)	(2,020,756)
Overall net exposure	3,609	(887,203)	434,006	2,989	8,900,310	5,819,675

Hong Kong dollar ("HKD") is pegged to the United States dollar ("USD"), the Company therefore consider the risk of movements in exchange rates between the USD and the HKD to be insignificant.

(ii) Sensitivity analysis

The following table indicates the instantaneous change on the Company's profit before tax that would arise if foreign exchange rate to which the Company has significant exposure at the end of reporting period had changed at that date, assuming all other risk variables remained constant.

	2020		2019	
	Increase/(decrease) in foreign exchange rates %	Increase/(decrease) on profit before tax \$	Increase/(decrease) in foreign exchange rates %	Increase/(decrease) on profit before tax \$
Australian dollars	5.13	185	-	-
	-	-	(4.35)	(130)
Japanese Yen	5.26	(46,627)	5.77	513,516
	-	-	-	-

The sensitivity analysis assumes that the change in foreign exchange rates had been applied to re-measure those financial instruments held by the Company which expose the Company to foreign currency risk at the end of the reporting period, including intercompany payables and receivables that are denominated in currencies other than the functional currency. The analysis is performed on the same basis for 2019.

11 Financial instruments (continued)**(e) Fair values of financial assets and liabilities**

The fair values of financial assets and liabilities are considered not to be materially different from the carrying values in the statement of financial position as at 31 December 2020 and 31 December 2019.

12 Immediate parent and ultimate controlling party

At 31 December 2020, the directors consider the Company's immediate parent to be Citigroup Global Markets Hong Kong Holdings Limited, which was incorporated in Hong Kong. This entity produces financial statements but not available for public use. Its ultimate controlling party at 31 December 2020 is considered to be Citigroup Inc., which was incorporated in the United States of America. Citigroup Inc. produces consolidated financial statements under generally accepted accounting principles in the United States of America, which are available for public use.

13 Possible impact of amendments, new standards and interpretations issued but not yet effective for the year ended 31 December 2020

Up to the date of issue of these financial statements, the HKICPA has issued a number of amendments and a new standard, HKFRS 17, *Insurance contracts*, which are not yet effective for the year ended 31 December 2020 and which have not been adopted in these financial statements. These developments include the following which may be relevant to the company.

	<i>Effective for accounting periods beginning on or after</i>
Amendments to HKFRS 9, HKAS 39, HKFRS 7, HKFRS 4 and HKFRS 16, <i>Interest Rate Benchmark Reform — Phase 2</i>	1 January 2021
Amendments to HKFRS 3, <i>Reference to the Conceptual Framework</i>	1 January 2022
Amendments to HKAS 16, <i>Property, Plant and Equipment: Proceeds before Intended Use</i>	1 January 2022
Amendments to HKAS 37, <i>Onerous Contracts - Cost of Fulfilling a Contract</i>	1 January 2022
Annual Improvements to HKFRSs 2018-2020 Cycle	1 January 2022
Amendments to HKAS 1, <i>Classification of Liabilities as Current or Non-current</i>	1 January 2023

The Company is in the process of making an assessment of what the impact of these developments is expected to be in the period of initial application. So far it has concluded that the adoption of them is unlikely to have a significant impact on the financial statements.

（２）【損益の状況】

管理会社の損益の状況については、「（１）資産及び負債の状況」の項目に記載した管理会社の純損益およびその他の包括利益計算書を御参照ください。

(訳文)

独立監査人の監査報告書

シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド

(香港で設立された有限責任会社)

の株主各位

財務書類監査に関する報告**監査意見**

私どもは、7ページから30ページ（訳注：原文のページ）に記載されたシティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッド（以下「会社」という。）の財務書類、すなわち、2020年12月31日現在の財政状態計算書、同日に終了した事業年度における純損益およびその他の包括利益計算書、資本変動計算書およびキャッシュ・フロー計算書、ならびに重要な会計方針の要約を含む財務書類に対する注記の監査を行った。

私どもは、当該財務書類が、香港公認会計士協会(以下「HKICPA」という。))が発行した香港財務報告基準(以下「HKFRS」という。))に準拠して、2020年12月31日現在の会社の財政状態ならびに同日に終了した事業年度の経営成績およびキャッシュ・フローに対して真実かつ公正な概観を与えているものと認める。

監査意見の根拠

私どもは、HKICPAが発行した香港会計基準(以下「HKSA」という。))に準拠し、実務指針第820号（改訂）「登録会社および仲介業者の関連会社の監査」を参照して監査を行った。本基準のもとでの私どもの責任は、当報告書の「財務書類の監査に対する監査人の責任」区分に詳述されている。私どもは、HKICPAの「職業的監査人の倫理規定」（以下「当規定」という。))に準拠して会社から独立しており、さらに私どもは、当規定に準拠してその他の倫理上の責任を果たした。私どもは、監査意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務書類およびそれに対する監査報告書以外の情報

取締役は、その他の情報について責任を有する。その他の情報は、年次報告書に含まれるすべての情報から成るが、財務書類およびそれに対する監査報告書は含まれない。

財務書類に対する私どもの監査意見は、その他の情報を対象としていないため、私どもは、当該その他の情報に対していかなる形式の保証の結論も表明しない。

財務書類の監査に関する私どもの責任は、その他の情報を通読し、その過程で、当該その他の情報が財務書類もしくは私どもが監査上入手した知識と著しく矛盾していないか、またはそれ以外に重要な虚偽表示であると疑われるようなものがないかを検討することである。

私どもは、実施した作業に基づき、当該その他の情報に重要な虚偽の記載があるとの結論に至った場合、かかる事実を報告する必要がある。私どもはこの点に関し、報告すべきことはない。

財務書類に対する取締役の責任

取締役は、HK I C P Aが発行したHK F R Sおよび香港会社法に準拠して、真実かつ公正な概観を与える財務書類を作成する責任、および不正または誤謬による重要な虚偽表示のない財務書類を作成するために取締役が必要と判断する内部統制に対する責任がある。

財務書類の作成において、取締役は、会社の継続企業の前提の評価、継続企業に関連する事項の開示（該当する場合）および継続企業の前提による会計処理の実施に責任を有する。ただし、取締役が会社を清算または業務を停止する意思を有する場合、あるいはそうするより他に現実的な代替方法がない場合はこの限りでない。

さらに、取締役は、当該財務書類が、香港証券先物（記録の保存）規則に基づき保存された記録に準拠し、かつ香港証券先物（会計および監査）規則の要件を充足していることを確保する必要がある。

財務書類の監査に対する監査人の責任

私どもの目的は、全体として財務書類に不正または誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかに関する合理的な保証を得て、監査意見を含む監査報告書を発行することにある。当報告書は香港会社法の第405条に準拠し、集団としての株主に対してのみ作成され、前項に記載されたその他の記載内容について報告するものであり、その他の目的で使用してはならない。私どもは当報告書の内容に関して他のいかなる人物に対する責任も負わず、かつ責務も引き受けない。

合理的な保証は、高い水準の保証であるが、HK S Aに準拠して実施された監査が、存在する重要な虚偽表示を常に発見することを確約するものではない。虚偽表示は、不正または誤謬から発生する可能性があり、個別にまたは集計すると、当該財務書類の利用者の経済的意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。また私どもは、当該財務書類が香港証券先物（記録の保存）規則に基づき保存された記録に準拠し、かつ香港証券先物（会計および監査）規則の要件を充足しているかどうかについての合理的な保証を得る必要がある。

HK S Aに準拠した監査の一環として、私どもは、監査を通じて職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持する他、以下を行う。

- 不正または誤謬による財務書類の重要な虚偽表示リスクを識別、評価し、当該リスクに対応した監査手続を立案、実施し、監査意見の基礎を提供する十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示を発見できないリスクは、誤謬による当該リスクよりも高くなる。これは、不正には、共謀、文書の偽造、意図的な除外、虚偽の言明、または内部統制の無効化が伴うためである。

- － 状況に応じて適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を理解する。ただし、これは、会社の内部統制の有効性に対する意見を表明することが目的ではない。
- － 取締役が採用した会計方針の適切性、ならびに取締役によって行われた会計上の見積りおよび関連する開示の妥当性を評価する。
- － 取締役が継続企業の前提により会計処理を実施したことの適切性について結論付ける。また、入手した監査証拠に基づき、会社の継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況に関して、重要な不確実性が存在するか否かを判断する。重要な不確実性が存在するとの結論に至った場合、当監査報告書において、財務書類の関連する開示を参照するよう促すか、または当該開示が不適切な場合は、財務書類に対する私どもの監査意見を修正する必要がある。私どもの結論は、監査報告書の日付までに入手した監査証拠に基づいている。しかし、将来の事象または状況により、会社が継続企業として存続しなくなる可能性がある。
- － 財務書類の全体的な表示、構成および内容（開示を含む。）、ならびに、財務書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表しているかを評価する。

私どもは、取締役と、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、および監査上の重要な発見事項（監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む。）に関して、協議する。

香港証券先物法の香港証券先物（記録の保存）規則および香港証券先物（会計および監査）規則に基づいた法定事項に関する報告

私どもは、当該財務書類が、香港証券先物（記録の保存）規則に基づき保存された記録に準拠し、かつ香港証券先物（会計および監査）規則の要件を充足しているものと認める。

ケーピーエムジー

公認会計士

香港、セントラル

チャターロード10

プリンスビル8階

2021年4月28日

**Independent auditor's report to the member of
Citigroup First Investment Management Limited**
(Incorporated in Hong Kong with limited liability)

Report on the audit of the financial statements

Opinion

We have audited the financial statements of Citigroup First Investment Management Limited (“the Company”) set out on pages 7 to 30, which comprise the statement of financial position as at 31 December 2020, the statement of profit or loss and other comprehensive income, the statement of changes in equity and the statement of cash flows for the year then ended and notes to the financial statements, including a summary of significant accounting policies.

In our opinion, the financial statements give a true and fair view of the financial position of the Company as at 31 December 2020 and of its financial performance and its cash flows for the year then ended in accordance with Hong Kong Financial Reporting Standards (“HKFRSs”) issued by the Hong Kong Institute of Certified Public Accountants (“HKICPA”) and have been properly prepared in compliance with the Hong Kong Companies Ordinance.

Basis for opinion

We conducted our audit in accordance with Hong Kong Standards on Auditing (“HKSA”) and with reference to Practice Note 820 (Revised), *The audit of licensed corporations and associated entities of intermediaries*, issued by the HKICPA. Our responsibilities under those standards are further described in the *Auditor's responsibilities for the audit of the financial statements* section of our report. We are independent of the Company in accordance with the HKICPA's *Code of Ethics for Professional Accountants* (“the Code”) and we have fulfilled our other ethical responsibilities in accordance with the Code. We believe that the audit evidence we have obtained is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion.

Information other than the financial statements and auditor's report thereon

The directors are responsible for the other information. The other information comprises all the information included in the annual report, other than the financial statements and our auditor's report thereon.

Our opinion on the financial statements does not cover the other information and we do not express any form of assurance conclusion thereon.

In connection with our audit of the financial statements, our responsibility is to read the other information and, in doing so, consider whether the other information is materially inconsistent with the financial statements or our knowledge obtained in the audit or otherwise appears to be materially misstated.

If, based on the work we have performed, we conclude that there is a material misstatement of this other information, we are required to report that fact. We have nothing to report in this regard.

Responsibilities of the directors for the financial statements

The directors are responsible for the preparation of the financial statements that give a true and fair view in accordance with HKFRSs issued by the HKICPA and the Hong Kong Companies Ordinance and for such internal control as the directors determine is necessary to enable the preparation of financial statements that are free from material misstatement, whether due to fraud or error.

In preparing the financial statements, the directors are responsible for assessing the Company's ability to continue as a going concern, disclosing, as applicable, matters related to going concern and using the going concern basis of accounting unless the directors either intend to liquidate the Company or to cease operations, or have no realistic alternative but to do so.

In addition, the directors are required to ensure that the financial statements are in accordance with the records kept under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and satisfy the requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules.

Auditor's responsibilities for the audit of the financial statements

Our objectives are to obtain reasonable assurance about whether the financial statements as a whole are free from material misstatement, whether due to fraud or error, and to issue an auditor's report that includes our opinion. This report is made solely to you, as a body, in accordance with section 405 of the Hong Kong Companies Ordinance, and to report to you on the other matters set out in the preceding paragraph, and for no other purpose. We do not assume responsibility towards or accept liability to any other person for the contents of this report.

Reasonable assurance is a high level of assurance, but is not a guarantee that an audit conducted in accordance with HKSAs will always detect a material misstatement when it exists. Misstatements can arise from fraud or error and are considered material if, individually or in the aggregate, they could reasonably be expected to influence the economic decisions of users taken on the basis of these financial statements. In addition, we are required to obtain reasonable assurance about whether the financial statements are in accordance with the records kept under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and satisfy the requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules

As part of an audit in accordance with HKSAs, we exercise professional judgement and maintain professional scepticism throughout the audit. We also:

- Identify and assess the risks of material misstatement of the financial statements, whether due to fraud or error, design and perform audit procedures responsive to those risks, and obtain audit evidence that is sufficient and appropriate to provide a basis for our opinion. The risk of not detecting a material misstatement resulting from fraud is higher than for one resulting from error, as fraud may involve collusion, forgery, intentional omissions, misrepresentations or the override of internal control.
- Obtain an understanding of internal control relevant to the audit in order to design audit procedures that are appropriate in the circumstances but not for the purpose of expressing an opinion on the effectiveness of the Company's internal control.
- Evaluate the appropriateness of accounting policies used and the reasonableness of accounting estimates and related disclosures made by the directors.

- Conclude on the appropriateness of the directors' use of the going concern basis of accounting and, based on the audit evidence obtained, whether a material uncertainty exists related to events or conditions that may cast significant doubt on the Company's ability to continue as a going concern. If we conclude that a material uncertainty exists, we are required to draw attention in our auditor's report to the related disclosures in the financial statements or, if such disclosures are inadequate, to modify our opinion. Our conclusions are based on the audit evidence obtained up to the date of our auditor's report. However, future events or conditions may cause the Company to cease to continue as a going concern.
- Evaluate the overall presentation, structure and content of the financial statements, including the disclosures, and whether the financial statements represent the underlying transactions and events in a manner that achieves fair presentation.

We communicate with the directors regarding, among other matters, the planned scope and timing of the audit and significant audit findings, including any significant deficiencies in internal control that we identify during our audit.

Report on matters under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules of the Hong Kong Securities and Futures Ordinance

In our opinion, the financial statements are in accordance with the records kept under the Hong Kong Securities and Futures (Keeping of Records) Rules and satisfy the requirements of the Hong Kong Securities and Futures (Accounts and Audit) Rules.

KPMG

Certified Public Accountants

8th Floor, Prince's Building

10 Chater Road

Central, Hong Kong

28 April 2021

（注）上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は本書代理人が別途保管している。